

第 2 次御前崎市
一般廃棄物処理基本計画
(平成 31 年度～平成 40 年度)



平成 31 年 3 月

御前崎市

目 次

第1編 基本的事項.....	1
第1章 計画の策定について.....	1
1 趣旨及び目的.....	1
2 計画の位置づけ.....	1
3 計画の目標年次.....	2
4 対象区域.....	2
第2章 上位計画等.....	2
1 御前崎市総合計画.....	2
2 国及び県の廃棄物処理の目標.....	3
第3章 市及び組合の概要.....	4
1 位置.....	4
2 変遷.....	4
3 人口.....	5
4 気象.....	5
5 工業.....	6
6 商業.....	7
7 組合の概要.....	8
第2編 ごみ.....	11
第1章 ごみ処理の現況.....	11
1 ごみの収集区分.....	11
2 ごみ処理の形態と収集運搬の状況.....	12
3 集積所数.....	12
4 ごみ処理のフロー.....	13
5 ごみ排出量の実績.....	14
6 中間処理.....	16
7 市による排出抑制政策とリサイクルの状況について.....	17
8 最終処分の現状.....	20
9 ごみ処理経費.....	21
10 課 題.....	21

第2章 将来予測	23
1 将来人口	23
2 収集ごみ	24
3 許可業者収集ごみ	26
4 直接搬入ごみ	28
5 資源集団回収	31
6 拠点回収	32
7 推計結果とりまとめ	33
第3章 ごみ処理基本計画	35
1 基本目標	35
2 排出抑制、減量化、再資源化計画	36
3 適正処理計画	37
第3編 生活排水編	39
第1章 概要及び現状	39
1 処理主体及び形態等	39
2 生活排水処理のフロー	39
3 生活排水処理施設の現状	40
4 生活排水処理の現状	44
5 し尿及び処理槽汚泥処理経費	48
6 課題	48
第2章 将来予測	49
1 生活排水処理形態別人口	49
2 し尿収集量及び浄化槽汚泥・下水道汚泥収集量の見通し	52
第3章 生活排水処理基本計画	55
1 生活排水処理計画	55
2 し尿・汚泥処理計画	57
3 広報・啓発活動計画	59
資料	60
推計資料	61

第 1 編 基本的事項

第 1 章 計画の策定について

1 趣旨及び目的

本計画は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」第 6 条第 1 項でその計画の策定が定められている一般廃棄物の処理における市のマスタープランであり、概ね 5 年ごとに改定することが適当であることとされている。この計画は、ごみ処理に係る「ごみ処理基本計画」と排水処理に係る「生活排水処理基本計画」を策定することになっている。

平成 20 年度に持続可能な循環型社会の構築に向け、ごみの減量化・再資源化を推進するとともに、効率的な処理体制を構築する必要があることから本計画を策定し、その後平成 25 年度に見直しを行った。本計画は前回の 1 次計画に引き続く 2 次計画であり、計画期間を平成 31 年度～平成 40 年度として策定したものである。

2 計画の位置づけ

第 2 次御前崎市総合計画の将来都市像を実現するための分野別の基本目標「美しい自然を次世代へ引き継ぐ安全・安心なまち」を具体化するための計画である。

なお、一般廃棄物処理基本計画は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」第 6 条に基づき、一般廃棄物の処理に関する基本的な事項について定めるものである。

参考：「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」第 6 条

(一般廃棄物処理基本計画)

第 6 条 市町村は、当該市町村の区域内の一般廃棄物の処理に関する計画（以下『一般廃棄物処理計画』という。）を定めなければならない。

2 一般廃棄物処理計画には、環境省令で定めるところにより、当該市町村の区域内の一般廃棄物の処理に関し、次に掲げる事項を定めるものとする。

- 一 一般廃棄物の発生量及び処理量の見込み
- 二 一般廃棄物の排出の抑制のための方策に関する事項
- 三 分別して収集するものとした一般廃棄物の種類及び分別の区分
- 四 一般廃棄物の適正な処理及びこれを実施する者に関する基本的事項
- 五 一般廃棄物の処理施設の整備に関する事項

3 市町村は、その一般廃棄物処理計画を定めるに当たっては、当該市町村の区域内の一般廃棄物の処理に関し関係を有する他の市町村の一般廃棄物処理計画と調和を保つよう努めなければならない。

5 市町村は、一般廃棄物処理計画を定め、又はこれを変更したときは、遅滞なく、これを公表するよう努めなければならない。

3 計画の目標年次

本計画は平成21年度(2009年度)を初年度とした当初計画を見直すもので、平成31年度から10年後である平成40年度(2028年度)を目標年次とするものである。

目標年次 平成40年度(2028年度)

4 対象区域

計画の対象区域は御前崎市全域とする

第2章 上位計画等

1 御前崎市総合計画

計画名称	第2次 御前崎市総合計画	
計画期間	平成28年度(2016年度)～平成37年度(2025年度)	
将来都市像	子どもたちの夢と希望があふれるまち 御前崎	
分野別基本目標	くらし環境	美しい自然を次世代へ引き継ぐ安全・安心なまち
	都市基盤	市民協働による居ごちのよいまち
	健康福祉	すべての人が健康で安心して暮らせる 支え合うまち
	経済産業	働く場所とにぎわいがたくさんあるまち
	教育文化	郷土を愛し 未来を創る 人づくり
	経営管理	市民とともに経営する自律したまち
基本目標「美しい自然を次世代へ引き継ぐ安全・安心なまち」 (主要な政策)	① 豊かな自然環境の保全 ・自然特性を生かしたエネルギーの利用推進 ・自然環境の保全と環境学習の推進	
	② 快適な生活環境の整備 ・住みよい環境衛生の整備	
	③ 安全・安心な地域づくり ・交通事故のない環境づくりの促進	
主な取り組み(廃棄物に関する事項)	① ごみの適正処理と再資源化の推進 ・ごみの減量意識を高めるとともに、分別により再資源化を推進し、資源集団回収の支援や拠点回収を進め、リサイクル率の向上を図る。 ・環境美化推進委員と協力して、ごみ集積所の監視・管理を進めるとともに、ごみの出し方の指導によるマナーの向上と、適正なごみ処理を周知する。	

図表2-1-1 上位計画

2 国及び県の廃棄物処理の目標

(1) 国の目標量

図表 2-2-1 国の目標量

指 標	単 位	平成 12 年度 (実績)	平成 32 年度 (目標)
一人一日あたりの排出量	g/人・日	1,185	890
最終処分率	%	19.2	9.8

※「第 3 次静岡県循環型社会形成計画」より抜粋

(2) 県の目標量

平成 28 年 3 月に制定された「第 3 次静岡県循環型社会形成計画」では以下のように定められている。

図表 2-2-2 県の目標量

指 標	単 位	平成 25 年度 (基準値)	平成 32 年度 (目標値)
一人一日あたりの排出量	g/人・日	917	815
最終処分率	%	6.3	4.2

(3) 市の目標量

平成 28 年 3 月に制定された「第 2 次御前崎市総合計画」では以下のように定められている。

図表 2-2-3 市の目標量

指 標	単 位	平成 26 年度 (現状)	平成 32 年度 (目標)	平成 37 年度 (目標)
一人一日あたりの 排出量	g/人・日	951	863	850

第3章 市及び組合の概要

1 位置

本市は、静岡県南西部の太平洋側に面し、北部は牧之原台地から続く丘陵地帯、南部は御前崎灯台の建つ岬や遠州灘海岸の砂丘地帯など豊かな自然環境に恵まれた市である。近隣の市町は、東に牧之原市、北に菊川市、西に掛川市があり、特に牧之原市とはごみ処理において広域施設組合を形成し深い係わりがある。



面積：65.86km²
人口：33,244人

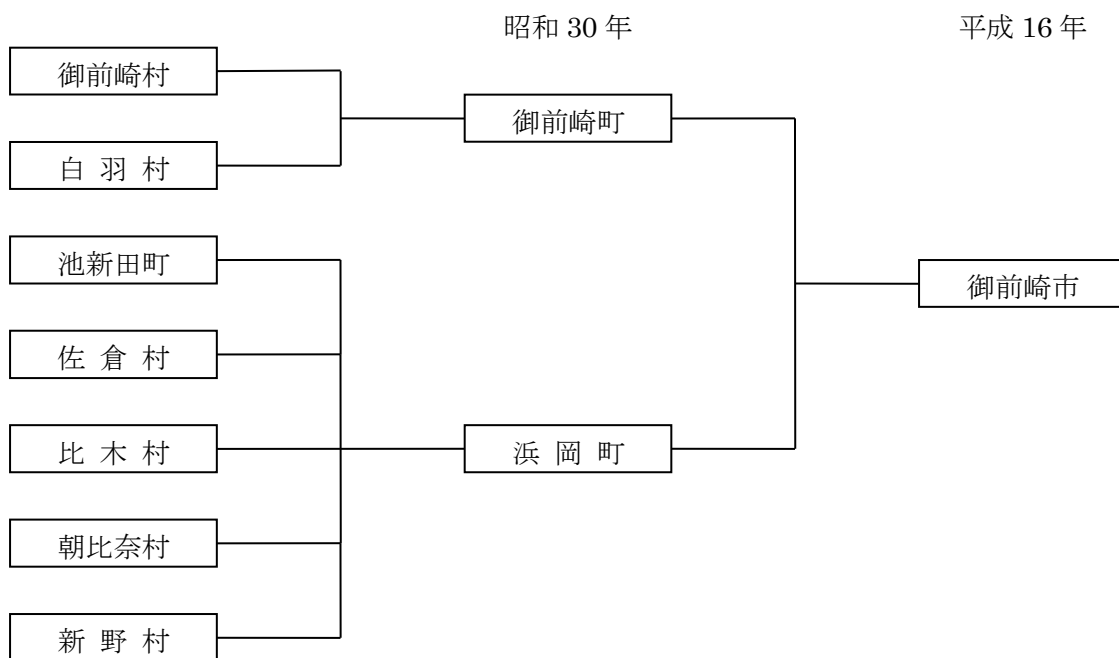


図表 3-1-1 位置

2 変遷

昭和30年に、御前崎村と白羽村が合併し御前崎町が誕生、池新田町、佐倉村、比木村、朝比奈村、新野村が合併し浜岡町が誕生した。

平成16年4月には、御前崎町と浜岡町の合併により、現在の御前崎市が誕生した。



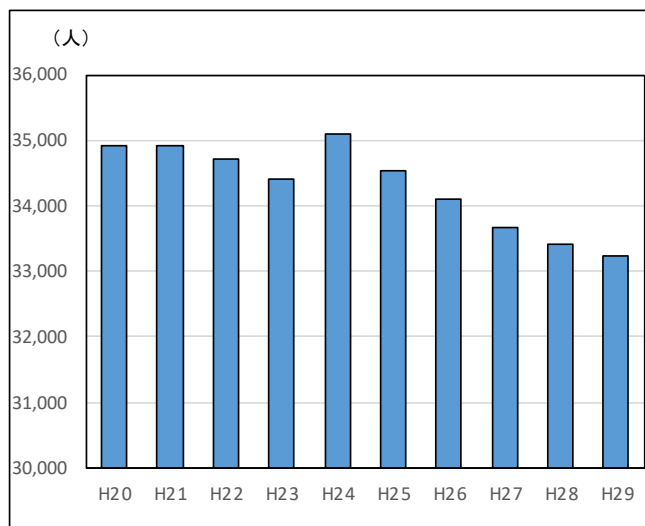
図表 3-2-1 変遷

3 人口

本市の総人口は、平成 29 年 10 月 1 日時点で 33,244 人である。

図表 3-3-1 人口 (単位：人)

年 度	人 口
平成 20 年	34,930
平成 21 年	34,924
平成 22 年	34,729
平成 23 年	34,399
平成 24 年	35,103
平成 25 年	34,539
平成 26 年	34,104
平成 27 年	33,680
平成 28 年	33,414
平成 29 年	33,244



(10 月 1 日現在の人口。なお、平成 24 年度以降は、住民基本台帳法の改正により、外国人を含む。)

図表 3-3-2 人口

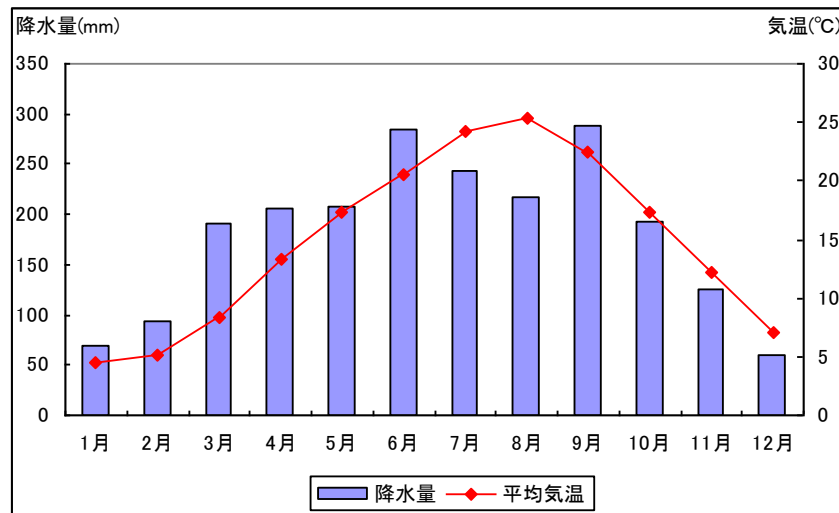
4 気象

本市の気象について、1981 年～2010 年までの平年値データを下記に示す。平均気温は 14.8℃、最高気温は 19.5℃、最低気温は 11℃、風速は 2.1m/s である。また本市は、過去に最大風速、最大瞬間風速共に、全国一位の記録を持つ。

図表 3-4-1 気象

項目	単位	統計期間	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	全 年
平均気温	℃	1981～2010	4.5	5.2	8.3	13.3	17.4	20.6	24.2	25.4	22.4	17.3	12.2	7	14.8
最高気温	℃	1981～2010	9.6	10.5	13.5	18.5	22.2	24.9	28.5	29.7	26.5	21.7	16.9	12.1	19.5
最低気温	℃	1981～2010	0.3	0.7	3.8	8.9	13.3	17.4	21.3	22.4	19.4	13.9	8.2	2.7	11
平均風速	m/s	1981～2010	2	2.1	2.3	2.3	2.2	2	1.8	2	2.3	2.4	2.1	1.9	2.1
日照時間	時間	1988～2010	194.1	178	185	193	185.5	132.7	158.6	206.8	156.6	159.7	168.8	198.5	2121.6
降水量	mm	1981～2010	69.7	93.6	191.5	206.2	207.4	284.9	243	217	287.5	192.7	124.7	59.9	2157.1

(出典：気象庁気象統計情報)



図表 3-4-2 気象

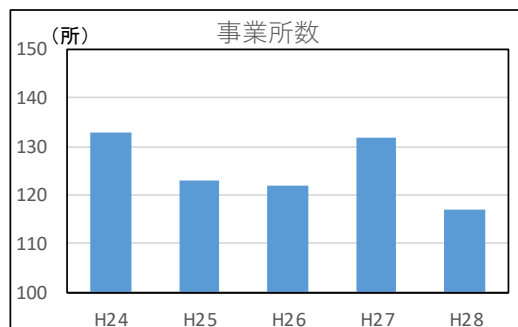
5 工業

「工業統計調査報告書」における従業員 4 人以上の事業所の事業所数、従業員数及び製造品出荷額を以下に示す。

(1) 事業所数

図表 3-5-1 事業所数 (単位：所)

	事業所数
平成 24 年	133
平成 25 年	123
平成 26 年	122
平成 27 年	132
平成 28 年	117

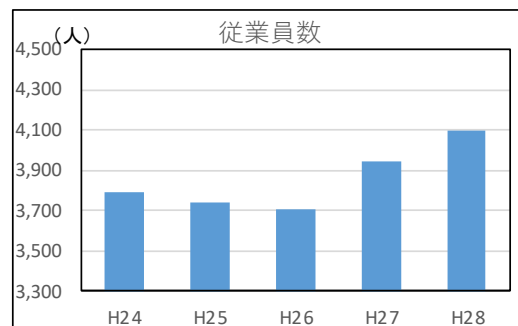


図表 3-5-2 事業所数

(2) 従業員数

図表 3-5-3 従業員数 (単位：人)

	従業員数
平成 24 年	3,787
平成 25 年	3,736
平成 26 年	3,706
平成 27 年	3,946
平成 28 年	4,098

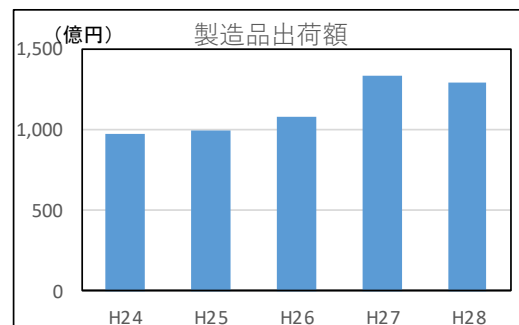


図表 3-5-4 従業員数

(3) 製造品出荷額

図表 3-5-5 製造品出荷額 (単位：万円)

	製造品出荷額
平成 24 年	9,725,155
平成 25 年	9,933,899
平成 26 年	10,815,244
平成 27 年	13,356,551
平成 28 年	12,927,527



図表 3-5-6 製造品出荷額

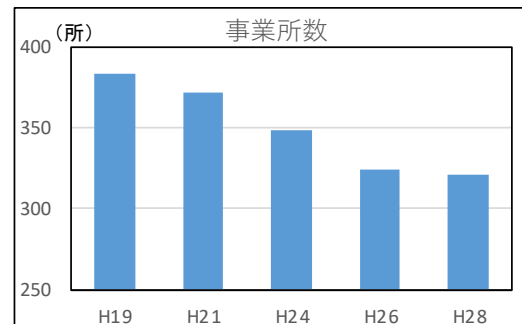
6 商業

「商業統計報告書」における卸・小売業の事業所数、従業員数及び年間商品販売額を表に示す。事業所数及び従業員数は平成 19 年は「商業統計調査」の値で、平成 21 年、平成 24 年、平成 26 年、平成 28 年は「経済センサス調査」の値である。年間商品販売額は「商業統計調査」の値である。

(1) 事業所数

図表 3-6-1 事業所数 (単位:所)

	事業所数
平成 19 年	384
平成 21 年	372
平成 24 年	349
平成 26 年	324
平成 28 年	321

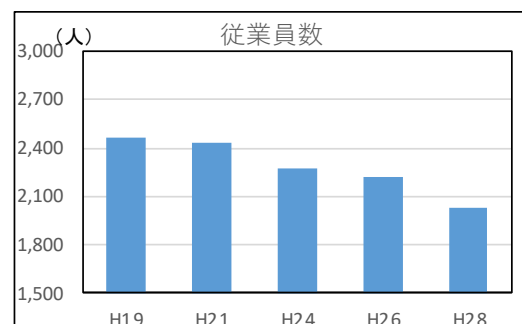


図表 3-6-2 事業所数

(2) 従業員数

図表 3-6-3 従業員数 (単位:人)

	従業員数
平成 19 年	2,463
平成 21 年	2,433
平成 24 年	2,274
平成 26 年	2,219
平成 28 年	2,030



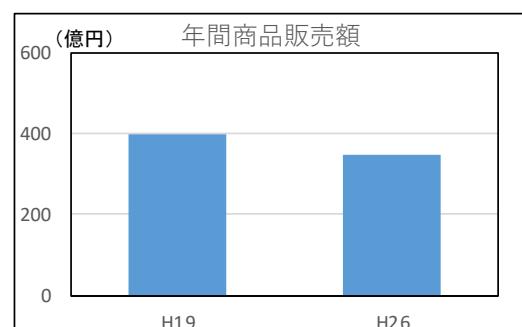
図表 3-6-4 従業員数

(3) 商品販売額

図表 3-6-5 年間商品販売額(単位:万円)

	商品販売額
平成 19 年	4,492,013
平成 26 年	4,280,700

※平成 21 年、平成 24 年、平成 28 年の統計数値は経済センサスになし。



図表 3-6-6 年間商品販売額

7 組合の概要

ごみ処理施設体制

本市におけるごみ処理は、隣の牧之原市と構成する牧之原市御前崎市広域施設組合により行われており、し尿・浄化槽汚泥の処理は近隣 4 市（御前崎市、牧之原市、菊川市、掛川市）で構成する東遠広域施設組合により行っている。以下に、それぞれの組合の概要を紹介する。

し尿の処理：東遠広域施設組合



沿 革	
昭和 39 年	「浜岡町外七カ町村衛生施設組合」の設立
昭和 40 年	し尿処理施設第一期施設の完成（72kl/日）
昭和 42 年	「東遠広域施設組合」に改称
昭和 45 年	し尿処理施設第二期施設の完成（72kl/日＋60kl/日（増設））
昭和 56 年	し尿処理施設第三期施設の完成（60kl/日＋140kl/日（増設））
平成 13 年	し尿処理施設第四期施設の完成（195kl/日）

ごみの処理：牧之原市御前崎市広域施設組合 環境保全センター



沿 革	
昭和 41 年	「相良町外 2 町厚生施設組合」設立
昭和 42 年	ごみ焼却処理施設 (20 t / 日) 完成 最終処分場 (焼却灰等 : 48,000 m ³) 完成
昭和 47 年	「相良町外 2 町広域施設組合」に改称
昭和 52 年	ごみ焼却処理施設 (50 t / 8H) 完成 指定袋によるごみの有料化開始
昭和 53 年	比木最終処分場 (瓦礫等 : 93,000 m ³) 完成
昭和 59 年	不燃物処理施設 (15 t / 5H) 完成
平成 4 年	ごみ焼却処理施設 (94 t / 16H) 完成 粗大ごみ処理施設 (25 t / 5H) 完成
平成 10 年	最終処分場 (焼却灰等 30,000 m ³) 完成 不燃物処理施設 (リサイクルセンター) 完成 ペットボトル、ビニール・プラスチックの分別収集開始
平成 16 年	一般廃棄物最終処分場 (瓦礫等 : 27,632 m ³) 完成
平成 17 年	「牧之原市御前崎市広域施設組合」に改称
平成 19 年	ごみ焼却処理施設の稼働時間の変更 (141 t / 日)

(焼却施設)

焼却能力 141/24h (70.5t/24h×2基)

炉形式 全連続式(ストーカ式)

排ガス処理 集塵機(バグフィルタ)及び有害ガス除去装置

煙突 鉄筋コンクリート造(内筒鋼製2筒(高さ59m))

余熱処理 センター内給湯、暖房及びむつみ荘への給湯

飛灰処理 薬剤処理方式

建設年度 平成2年～平成3年度(ダイオキシン類対策工事(H12～13年度))

(粗大ごみ処理施設)

破碎能力 25t/5h

破碎形式 横型回転式、剪断式(焼却処理用「1t/h」)

選別方式 機械選別方式(鉄、アルミ、不燃物、可燃物の4種類)

建設年度 平成2～3年度

(最終処分場(管理型))

埋立面積 4,300m²

埋立容量 30,000m³

埋立期間 15年間

遮水方式 短繊維系不織布、合成ゴム系二重シート

水処理量 25m³/日

建設年度 平成8～9年度

(最終処分場(安定型))

埋立面積 6,031m²

埋立容量 36,744m³

廃棄物埋立容量 27,632m³

建設年度 平成15年度

(リサイクルセンター)

建築面積 1,025.5m²

処理設備 ペットボトル圧縮梱包設備及び搬入物ヤード、ガラス搬入物ヤード、金物類搬入物ヤード、古紙類(新聞・雑誌)搬入物ヤード

建設年度 平成10年度

第2編 ごみ

第1章 ごみ処理の現況

1 ごみの収集区分

本市のごみの収集区分について、以下に示す。資源ごみはビニール・プラスチック類や金物、ガラスなど、全部で6種類に区分されている。ビニール・プラスチック類については、平成20年4月1日より、プラマークのあるものとないもので分別が行われるようになった。

図表 1-1-1 収集区分

収集区分		内 容
可燃物	可燃ごみ	生ごみ、紙くずなど
資源ごみ	ビニール・プラスチック類 (プラマークあり)	プラマークありのビニール・プラスチック(白色トレイ)
	ビニール・プラスチック類 (プラマークなし)	プラマークなしのビニール・プラスチック
	金物	空き缶、スプレー缶、鍋・やかんなど
	ガラス	ガラス・空きビンなど
	陶磁器	植木鉢、茶碗、皿など
	ペットボトル	ペットボトル(PET1マークのみ)
その他のごみ		乾電池、蛍光灯など



御前崎の風景（桜ヶ池）

2 ごみ処理の形態と収集運搬の状況

本市におけるごみ処理の形態、収集運搬の状況等について以下に示す。なお、家庭系ごみはステーション回収方式及び排出者による処理施設への自己搬入の形態がある。

図表 1-2-1 処理形態と収集運搬の状況

対象ごみ		収集回数	収集運搬	中間処理	最終処分・再資源化
収集ごみ	可燃ごみ	2 回/週	委 託	直営・委託	直営・委託
	ガラス類	1 回/月			委 託
	ペットボトル	1 回/月			
	ビニール・プラスチック類 (プラマークあり)	4 回/月			
	ビニール・プラスチック類 (プラマークなし)	1 回/月			
	金物類	1 回/月			
	陶磁器類	3 ヶ月に 1 回			
直接搬入ごみ	可燃ごみ			直営・委託	直営・委託
	ガラス類				委 託
	ペットボトル				
	ビニール・プラスチック類 (プラマークありとなしの 2 種類)				
	金物類				
	古紙				
	瓦礫類				直 営
	陶磁器類				委 託
	草木類				

3 集積所数

集積所の設置数について以下に示す。

図表 1-3-1 集積所設置数

	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
設置数	348	357	360	360	366	367
軒並み(内)	(13)	(11)	(9)	(8)	(8)	(0)

4 ごみ処理のフロー



図表 1-4-1 ごみ処理のフロー

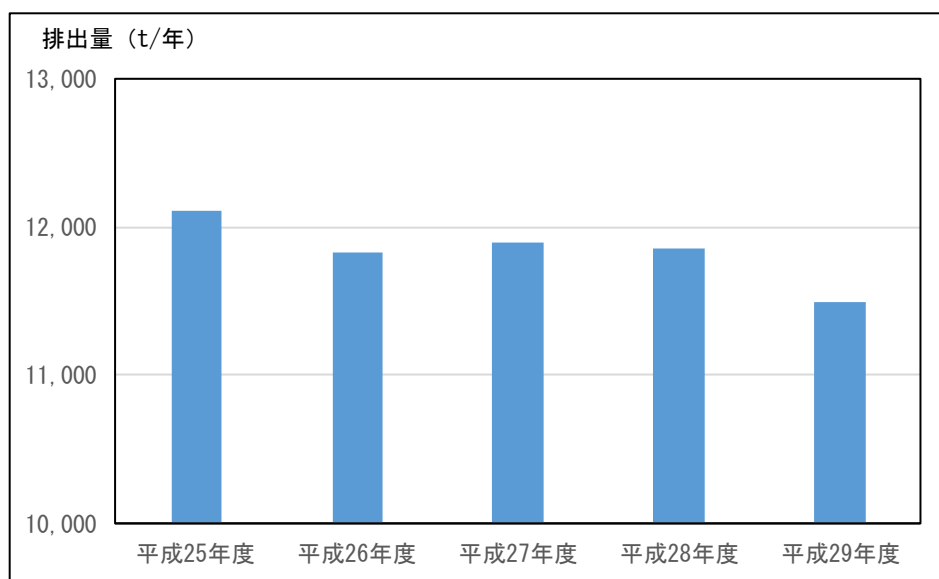
5 ごみ排出量の実績

(1) ごみ排出量

図表 1-5-1

(単位：t/年)

区分		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
可燃ごみ	収集	5,482	5,554	5,513	5,424	5,376
	直接搬入	1,518	1,141	1,069	1,375	1,005
	許可業者	2,191	2,226	2,332	2,434	2,367
	計	9,191	8,921	8,914	9,233	8,748
ビニール・プラスチック	収集	321	305	299	275	286
	直接搬入	25	16	26	15	21
	許可業者	2	1	1	1	1
	計	348	322	326	291	308
PET ボトル	収集	59	56	56	53	51
	直接搬入	0	0	0	1	1
	許可業者	0	3	4	4	4
	計	59	59	60	58	56
金物	収集	151	136	137	124	121
	直接搬入	47	49	54	62	53
	許可業者	23	15	6	6	5
	計	221	200	197	192	179
ガラス	収集	202	195	194	162	172
	直接搬入	6	4	6	39	4
	許可業者	56	54	47	45	42
	集団回収	6	6	5	4	4
	計	270	259	252	250	222
陶磁器	収集	27	25	26	25	25
	直接搬入	18	19	19	19	15
	計	45	44	45	44	40
瓦礫	直接搬入	335	380	518	292	518
蛍光管 乾電池	収集	19	14	11	13	14
古紙	直接搬入	36	33	32	37	22
	集団回収	723	692	582	538	489
	拠点回収	191	185	207	190	185
	計	951	909	821	765	696
草木類	直接搬入	597	644	680	659	659
古布類	直接搬入	14	20	15	5	4
	集団回収	13	12	10	7	8
	計	27	32	25	12	12
小型家電	直接搬入	35	31	32	32	34
金属類	集団回収	16	15	13	15	13
合計		12,113	11,830	11,894	11,857	11,498



図表 1-5-2

(2) 一人一日あたりの排出状況

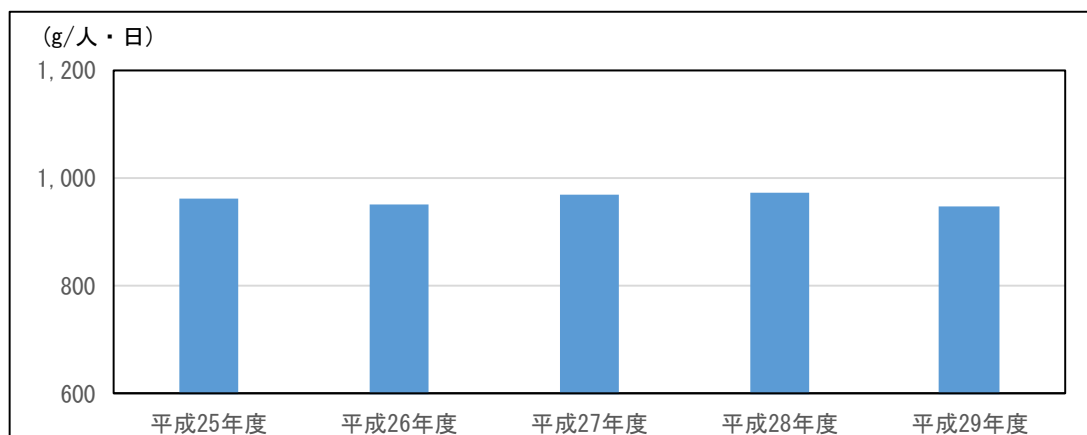
一人一日あたりが出すごみの排出量について以下に示す。

近年は増減を繰り返しているが、平成 29 年度は 948g/人・日で、平成 28 年度よりは減少した。

図表 1-5-3 一人一日当たりの排出状況

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
排出量(t/年)	12,113	11,830	11,894	11,857	11,498
人 口(人)	34,539	34,104	33,680	33,414	33,244
一人一日あたりの 排出量(g/人・日)	961	950	968	972	948

※人口は各年 9 月末現在。外国人を含む。



図表 1-5-4 一人一日当たりの排出状況

(3) 家庭系ごみ排出量の推移（可燃ごみのうち、収集されたもの）

ほぼ純粋に、家庭から排出されるという位置付けで、可燃ごみのうち、収集されるものについて調査した。これによれば、家庭からのごみは 435~448g/人・日で推移していることがわかる。

図表 1-5-5 家庭系ごみ排出量の推移

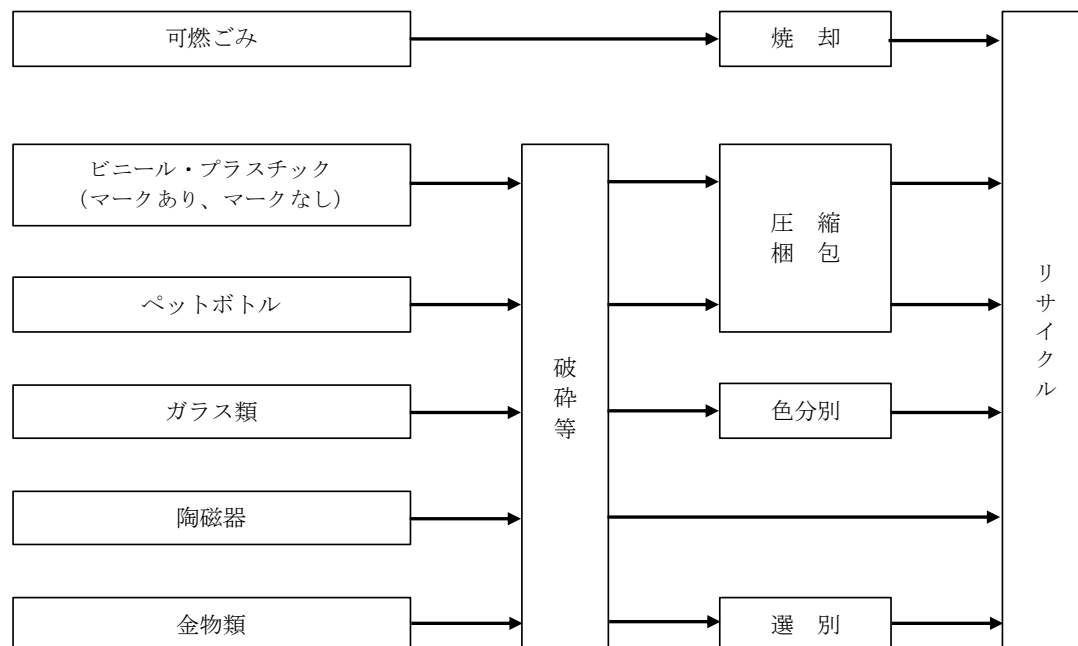
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
排出量(t/年)	5,482	5,554	5,513	5,424	5,376
人 口(人)	34,539	34,104	33,680	33,414	33,244
一人一日あたりの 排出量(g/人・日)	435	446	448	445	443

※人口は各年 9 月末現在。外国人を含む。

6 中間処理

(1) 中間処理のフロー

中間処理については、牧之原市御前崎市広域施設組合の環境保全センターにて、焼却処理と、破碎等の処理が行われている。以下に中間処理のフローを示す。



図表 1-6-1 中間処理の状況

(2) 中間処理による焼却量と焼却率

平成 25 年度からの焼却量と焼却率について示したものが以下である。

図表 1-6-2 中間処理による焼却量と焼却率 (単位: t/年)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
焼却量	9,241	8,989	8,981	9,318	8,808
ごみ排出量	11,164	10,920	11,079	11,103	10,802
焼却率	82.8%	82.3%	81.1%	83.9%	81.5%

注) ごみ排出量には拠点回収分・集団回収分は含まれていません。

7 市による排出抑制政策とリサイクルの状況について

御前崎市では、ごみの排出抑制として、生ごみ処理機購入補助制度や資源集団回収への奨励金等の様々な政策を行っている。以下に詳細を示す。

また、本市におけるリサイクルの状況について以下に示す。

(1) スーパー等におけるレジ袋の有料化

平成 20 年 10 月 1 日より、市内の協賛店の協力を得て、レジ袋の有料化を開始し、マイバッグ等の推進を図ることにより、ごみの減量化を推進する。

(2) 生ごみ処理機器購入に対する助成制度

本市では、家庭から発生する生ごみの減量と資源の再利用を目的に、生ごみ処理機器設置費補助金の交付を行っている。以下に、助成制度の概要、生ごみ処理機器設置の補助基数について示す。

図表 1-7-1 生ごみ処理機購入への助成制度

対象機器		機器の基準	補助額
電化製品 家庭用	微生物分解式	電気を利用して生ごみを分解し、減容または消滅させる。	購入価格に 2 分の 1 を乗じた額(100 円未満切捨て) 20,000 円を限度
	乾燥式	生ごみを加熱・乾燥して、水分を減らして減容させる。	
コンポスト容器		土中の微生物を利用して減量化、堆肥化させる。容量 100 リットル以上 耐用年数 5 年以上	購入価格に 3 分の 2 を乗じた額(100 円未満切捨て) 5,000 円を限度
ばかし専用容器		有効微生物群を利用して生ごみを減量化、堆肥化させる。容量 15 リットル以上 耐用年数 5 年以上	

(3) 生ごみ処理機器設置の補助基数

図表 1-7-2 生ごみ処理機器設置の補助基数

(単位：基)

年度	補助基数				
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
コンポスト化容器等	12	3	6	6	12
電気式	13	11	7	5	7
合計	25	14	13	11	19

(4) リサイクルステーション

本市では、平成 21 年度より、ごみ減量化、市民サービス向上を考え、古紙リサイクルの推進を事業者協力のもと回収ボックス（コンテナ）を浜岡地区、御前崎地区の 2 箇所に設置して行う。

取扱い品目はダンボール、新聞紙、雑誌、雑紙類とする。

(5) 資源集団回収への助成制度

本市では、御前崎市資源集団回収促進奨励金交付要綱を設置し、以下の交付対象団体に対し、奨励金の交付を行うことで、集団回収の促進と資源の有効利用、また市民のごみに対する理解の造詣に取り組んでいる。

図表 1-7-3 資源集団回収への助成制度

交付対象団体	町内会、PTA、女性団体、老人団体、その他市長が認めた団体
交付対象品目	新聞紙、ダンボール、雑誌等の古紙類、古布、牛乳パック、アルミ缶、びん
奨励金の額	古紙類、古布、牛乳パック、アルミ缶：1kgにつき3円 びん：1本につき3円

(6) ごみ集積所設置に対する補助制度

本市では、御前崎市ごみ集積所整備費補助要綱を設置し、町内会を対象に補助金の交付を実施することで、風雨又は小動物等が原因によるごみの散乱を防止し、環境美化の推進に取り組んでいる。

図表 1-7-4 ごみ集積所設置に対する補助制度

補助の対象	町内会 設置するごみ収納施設については、10年以上の使用に耐え得る構造であること。
補助額	設置にかかる費用の2/3以内で、10万円を限度とする。 ただし、更新の場合は10年以上経過したものであること。

(7) 蛍光灯・乾電池などの拠点回収

蛍光灯や乾電池については、各地区公民館や販売店、市役所での拠点回収を行うことで、リサイクルの推進に取り組んでいる。（広域施設組合が実施）

図表 1-7-5 蛍光灯・乾電池などの拠点回収

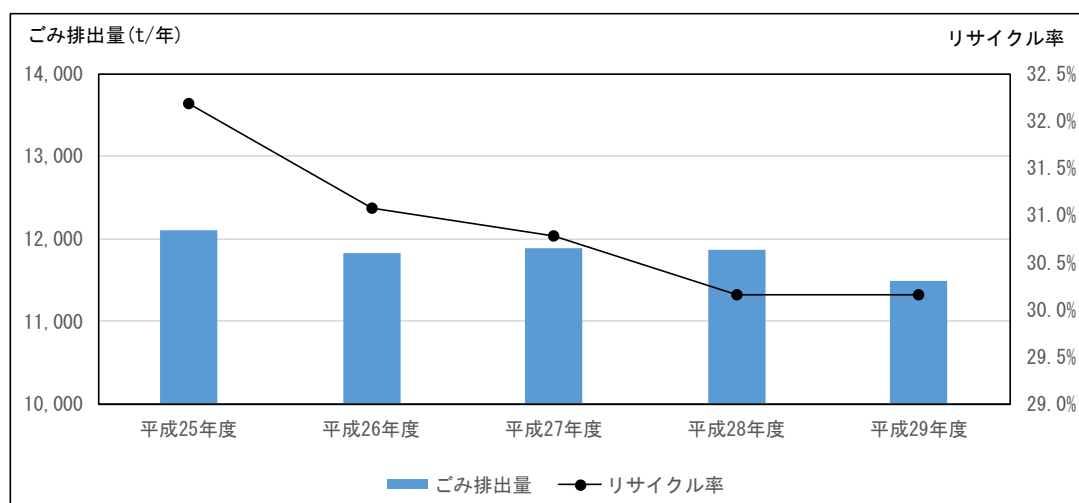
品 目	回収場所
蛍光灯・電球	販売店
乾電池	販売店、各地区公民館、市役所

(8) ごみリサイクルの状況

本市におけるごみのリサイクルについて示したのが以下の表である。

図表 1-7-6 リサイクルの状況 (単位：t/年)

		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
リ サ イ ク ル	拠点回収	191	185	207	190	185
	集団回収	758	724	610	565	513
	資源分別回収	1,560	1,522	1,554	1,468	1,450
	焼却灰リサイクル	1,389	1,246	1,290	1,353	1,319
	計	3,898	3,677	3,661	3,576	3,467
ごみ排出量		12,113	11,830	11,894	11,857	11,498
リサイクル率		32.2%	31.1%	30.8%	30.2%	30.2%



図表 1-7-7 リサイクルの状況

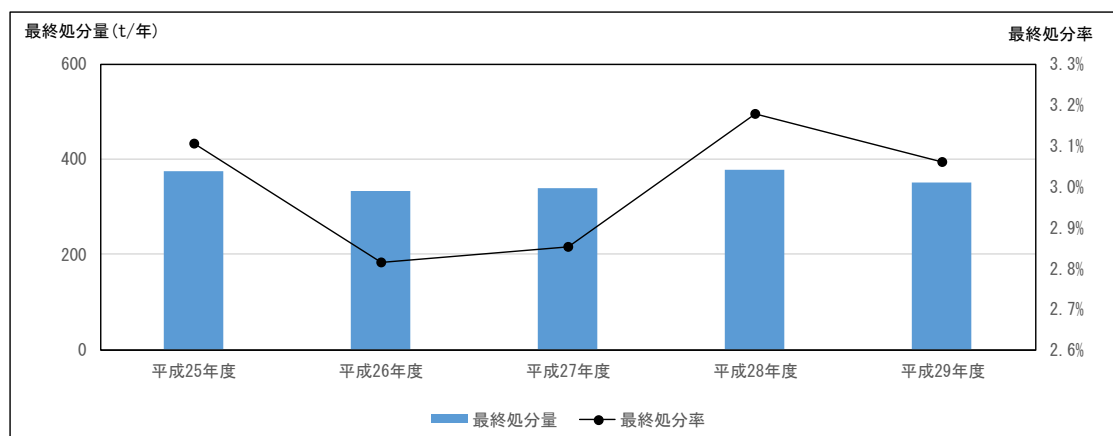
8 最終処分の現状

本市の最終処分の現状についてまとめたものが以下である。瓦礫が最終処分場で処理されている。なお、最終処分率の算出に当たっては、ごみ排出量を用いた。

図表 1-8-1 最終処分

(単位：t/年)

年度	焼却残渣 (A)	不燃物 (B)	瓦礫 (C)	最終処分量 (A+B+C)	ごみ排出量	最終処分率
平成 25 年度	0	0	376	376	12,113	3.1%
平成 26 年度	0	0	333	333	11,830	2.8%
平成 27 年度	0	0	339	339	11,894	2.9%
平成 28 年度	0	0	377	377	11,857	3.2%
平成 29 年度	0	0	352	352	11,498	3.1%



図表 1-8-1 最終処分

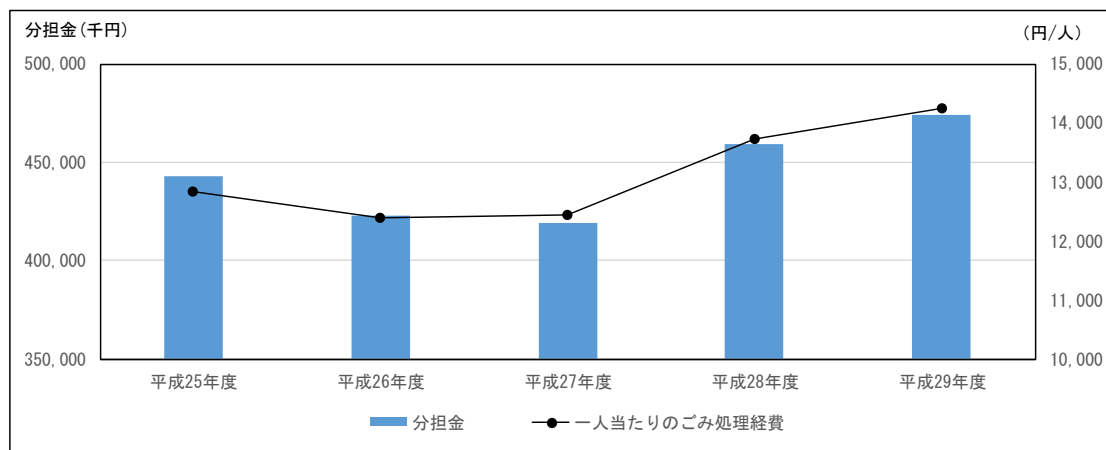
9 ごみ処理経費

ごみ処理に係わる経費をまとめたものが以下となる。ごみ処理に係わる収集運搬業務、中間処理業務、最終処分処理業務は牧之原市御前崎市広域施設組合において実施されており、市はそれに対する分担金を負担している。

図表 1-9-1 ごみ処理経費

	単位	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
分担金	千円	443,245	422,763	418,854	459,175	474,222
人 口	人	34,539	34,104	33,680	33,414	33,244
一人当たりの ごみ処理経費	円/人	12,833	12,396	12,436	13,742	14,265

※人口は各年 9 月末現在。外国人を含む。



図表 1-9-2 ごみ処理経費

10 課 題

(1) 発生抑制、排出抑制についての課題

一人一日当たりのごみ排出量は近年は増減を繰り返す傾向にあり、平成 29 年度時点では 948g で、平成 26 年度の 950g とほぼ同程度である。今後も廃棄物の発生量増加の可能性もあるため、対応が必要である。

特に可燃ごみのうち許可業者搬入ごみは減少傾向にはないことから、取り組みが必要と考えられる。

(2) 分別・リサイクルの課題

市民からの排出段階での分別は、可燃ごみ、資源ごみ（ガラス類、ペットボトル、ビニール・プラスチック（マークありとなしの 2 種類）、陶磁器、金物類）、その他のごみ（蛍光灯・乾電池）に分別されており、特別なごみ等は直接搬入で引取りを行っている。ごみの分別区分の増減は、住民に対する負担が増えるだけでなく収集コスト増加も招くため、十分な検討が必要である。

また、本市はこれから高齢者の割合が増えることが予想されるため、ごみの分別方法の周知徹底について、わかりやすい情報の提供が必要である。

（３）収集・運搬の課題

家庭から排出されるごみのうち、資源ごみについては、可燃ごみに比べて収集回数が月に数回と少ないため、特に紙類やビニール・プラスチック類は分別されずに可燃ごみに出されることが問題になっている。

（４）中間処理の課題

平成４年に竣工した牧之原市御前崎市広域施設組合のごみ焼却施設は、現在２６年を経過しており、計画の目標年度である平成４０年には、竣工から３６年が経過する計算となる。次期のごみ処理施設計画については、より広域な処理も視野に入れた施設整備の検討が必要である。

（５）最終処分場の課題

新たな施設及び最終処分場の概要が確定していないため、焼却灰と飛灰をリサイクルしているが、更に現在の最終処分場の延命を図る必要がある。

（６）施設の更新計画等

平成２０年度の「ごみ処理施設の更新に関する検討結果報告書」を受け、平成２２年度に老朽化傾向にある牧之原市御前崎市広域施設組合のごみ処理施設について、専門技術者の視点で「ごみ処理施設専門技術検討委員会」で今後の施設の更新計画等の検証を行った。

今後は、吉田町牧之原市広域施設組合のごみ処理施設も同様に検証しながら、施設の更新計画等について関係する構成市町とともにあらゆる方向から検討を行う。

（７）災害対策

今後想定されている大規模な震災発生時における廃棄物の処理に係わる課題の検討を行った。シュミレートについては、それぞれの組合が機能を喪失したケースと両方の組合が機能を喪失したケース、また収集運搬における課題、がれき処理の課題、災害廃棄物の広域処理について課題の検討を実施したものである。

第2章 将来予測

1 将来人口

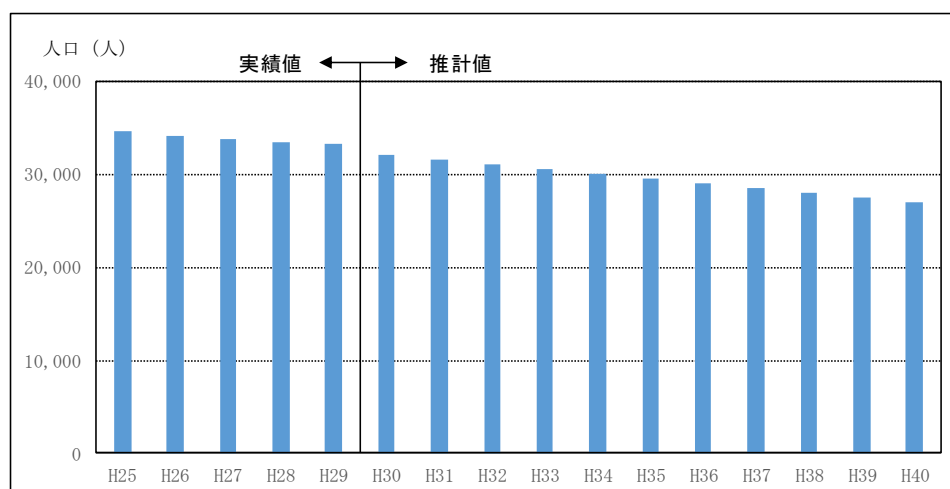
本計画で採用した将来人口を以下に示す。人口は今後緩やかに減少し、目標年次である平成40年度には、26,968人になると推計した。なお、本市は浜岡原子力発電所の工事等のため、一時滞在者や外国人労働者の増減が考えられる。

図表2-1-1 将来人口

年 度	将来人口（人）
平成25年	34,539
平成26年	34,104
平成27年	33,680
平成28年	33,414
平成29年	33,244
平成30年	32,000
平成31年	31,497
平成32年	30,994
平成33年	30,490
平成34年	29,987
平成35年	29,484
平成36年	28,981
平成37年	28,478
平成38年	27,974
平成39年	27,471
平成40年	26,968

※実績値は平成25～29年度、それ以降は推計値である

※人口は、10月1日現在。



図表2-1-2 将来人口

2 収集ごみ

収集ごみの将来予測は、年間収集量を 365 日で除して、さらに収集人口で除して、一人一日あたりの平均排出量を求め、過去 5 年の実績値から推計し、将来値を求めた。蛍光灯・乾電池については、年間収集量を 365 日で除して、一日あたりの平均排出量を求め、過去 5 年の実績値から推計し、将来値を求めた。

※ 一人一日あたりの平均排出量 (g/人・日) = 年間収集量(t/年) / 365(日) / 収集人口(人) × 10⁶

(1) 可燃ごみ

図表 2-2-1 可燃ごみ

		単位:g/人・日
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	434.8
	平成 26 年	446.2
	平成 27 年	448.5
	平成 28 年	444.7
	平成 29 年	443.1
推計値	平成 30 年	449.0
	平成 31 年	449.0
	平成 32 年	449.0
	平成 33 年	449.0
	平成 34 年	449.0
	平成 35 年	449.0
	平成 36 年	449.0
	平成 37 年	449.0
	平成 38 年	449.0
	平成 39 年	449.0
	平成 40 年	449.0
採用値		ロジスティック曲線

(3) ペットボトル

図表 2-2-3 ペットボトル

		単位:g/人・日
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	4.7
	平成 26 年	4.5
	平成 27 年	4.6
	平成 28 年	4.3
	平成 29 年	4.2
推計値	平成 30 年	4.2
	平成 31 年	4.1
	平成 32 年	4.0
	平成 33 年	3.9
	平成 34 年	3.8
	平成 35 年	3.7
	平成 36 年	3.7
	平成 37 年	3.6
	平成 38 年	3.5
	平成 39 年	3.5
	平成 40 年	3.4
採用値		べき曲線

(2) ビニール・プラスチック

図表 2-2-2 ビニール・プラスチック

		単位:g/人・日
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	25.5
	平成 26 年	24.5
	平成 27 年	24.3
	平成 28 年	22.5
	平成 29 年	23.6
推計値	平成 30 年	22.7
	平成 31 年	22.4
	平成 32 年	22.1
	平成 33 年	21.9
	平成 34 年	21.8
	平成 35 年	21.6
	平成 36 年	21.5
	平成 37 年	21.4
	平成 38 年	21.3
	平成 39 年	21.3
	平成 40 年	21.2
採用値		ロジスティック曲線

(4) 金物

図表 2-2-4 金物

		単位:g/人・日
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	12.0
	平成 26 年	10.9
	平成 27 年	11.1
	平成 28 年	10.2
	平成 29 年	10.0
推計値	平成 30 年	10.8
	平成 31 年	10.8
	平成 32 年	10.8
	平成 33 年	10.8
	平成 34 年	10.8
	平成 35 年	10.8
	平成 36 年	10.8
	平成 37 年	10.8
	平成 38 年	10.8
	平成 39 年	10.8
	平成 40 年	10.8
採用値		H25～29 の平均値

(5) ガラス

図表 2-2-5 ガラス

		単位:g/人・日
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	16.0
	平成 26 年	15.7
	平成 27 年	15.8
	平成 28 年	13.3
	平成 29 年	14.2
推計値	平成 30 年	14.2
	平成 31 年	14.2
	平成 32 年	14.2
	平成 33 年	14.2
	平成 34 年	14.2
	平成 35 年	14.2
	平成 36 年	14.2
	平成 37 年	14.2
	平成 38 年	14.2
	平成 39 年	14.2
	平成 40 年	14.2
採用値		H29 年の値

(7) 蛍光灯・乾電池

図表 2-2-7 蛍光灯・乾電池

		単位:t/日
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	0.05
	平成 26 年	0.04
	平成 27 年	0.03
	平成 28 年	0.04
	平成 29 年	0.04
推計値	平成 30 年	0.04
	平成 31 年	0.04
	平成 32 年	0.04
	平成 33 年	0.04
	平成 34 年	0.04
	平成 35 年	0.04
	平成 36 年	0.04
	平成 37 年	0.04
	平成 38 年	0.04
	平成 39 年	0.04
	平成 40 年	0.04
採用値		H25～29 の平均値

(6) 陶磁器

図表 2-2-6 陶磁器

		単位:g/人・日
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	2.1
	平成 26 年	2.0
	平成 27 年	2.1
	平成 28 年	2.0
	平成 29 年	2.1
推計値	平成 30 年	2.1
	平成 31 年	2.1
	平成 32 年	2.1
	平成 33 年	2.1
	平成 34 年	2.1
	平成 35 年	2.1
	平成 36 年	2.1
	平成 37 年	2.1
	平成 38 年	2.1
	平成 39 年	2.1
	平成 40 年	2.1
採用値		ロジスティック曲線

3 許可業者収集ごみ

許可業者収集ごみの将来予測は、年間収集量を 365 日で除して、一日あたりの平均排出量を求め、過去 5 年の実績値から推計し、将来値を求めた。

(1) 可燃ごみ

図表 2-3-1 可燃ごみ

単位:t/日		
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	6.0
	平成 26 年	6.1
	平成 27 年	6.4
	平成 28 年	6.7
	平成 29 年	6.5
推計値	平成 30 年	6.3
	平成 31 年	6.3
	平成 32 年	6.3
	平成 33 年	6.3
	平成 34 年	6.3
	平成 35 年	6.3
	平成 36 年	6.3
	平成 37 年	6.3
	平成 38 年	6.3
	平成 39 年	6.3
	平成 40 年	6.3
採用値		H25～29 の平均値

(3) ペットボトル

図表 2-3-3 ペットボトル

単位:t/日		
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	0.000
	平成 26 年	0.008
	平成 27 年	0.011
	平成 28 年	0.011
	平成 29 年	0.011
推計値	平成 30 年	0.010
	平成 31 年	0.010
	平成 32 年	0.010
	平成 33 年	0.010
	平成 34 年	0.010
	平成 35 年	0.010
	平成 36 年	0.010
	平成 37 年	0.010
	平成 38 年	0.010
	平成 39 年	0.010
	平成 40 年	0.010
採用値		H26～29 の平均値

(2) ビニール・プラスチック

図表 2-3-2 ビニール・プラスチック

単位:t/日		
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	0.005
	平成 26 年	0.003
	平成 27 年	0.003
	平成 28 年	0.003
	平成 29 年	0.003
推計値	平成 30 年	0.000
	平成 31 年	0.000
	平成 32 年	0.000
	平成 33 年	0.000
	平成 34 年	0.000
	平成 35 年	0.000
	平成 36 年	0.000
	平成 37 年	0.000
	平成 38 年	0.000
	平成 39 年	0.000
	平成 40 年	0.000
採用値		産廃のため受入なし

(4) 金物

図表 2-3-4 金物

単位:t/日		
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	0.06
	平成 26 年	0.04
	平成 27 年	0.02
	平成 28 年	0.02
	平成 29 年	0.01
推計値	平成 30 年	0.02
	平成 31 年	0.02
	平成 32 年	0.02
	平成 33 年	0.02
	平成 34 年	0.02
	平成 35 年	0.02
	平成 36 年	0.02
	平成 37 年	0.02
	平成 38 年	0.02
	平成 39 年	0.02
	平成 40 年	0.02
採用値		H27～29 の平均値

(5) ガラス

図表 2-3-5 ガラス

		単位:t/日
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	0.15
	平成 26 年	0.15
	平成 27 年	0.13
	平成 28 年	0.12
	平成 29 年	0.12
推計値	平成 30 年	0.12
	平成 31 年	0.12
	平成 32 年	0.12
	平成 33 年	0.11
	平成 34 年	0.11
	平成 35 年	0.11
	平成 36 年	0.11
	平成 37 年	0.11
	平成 38 年	0.11
	平成 39 年	0.11
	平成 40 年	0.11
採用値		ロジスティック曲線

4 直接搬入ごみ

直接搬入ごみの将来予測は、年間収集量を 365 日で除して、一日あたりの平均排出量を求め、過去 5 年の実績値から推計し、将来値を求めた。

(1) 可燃ごみ

図表 2-4-1 可燃ごみ

単位:t/日		
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	4.2
	平成 26 年	3.1
	平成 27 年	2.9
	平成 28 年	3.8
	平成 29 年	2.8
推計値	平成 30 年	2.8
	平成 31 年	2.7
	平成 32 年	2.6
	平成 33 年	2.5
	平成 34 年	2.4
	平成 35 年	2.3
	平成 36 年	2.3
	平成 37 年	2.3
	平成 38 年	2.2
	平成 39 年	2.2
	平成 40 年	2.2
採用値		ロジスティック曲線

(3) ペットボトル

図表 2-4-3 ペットボトル

単位:t/日		
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	0.000
	平成 26 年	0.000
	平成 27 年	0.000
	平成 28 年	0.003
	平成 29 年	0.003
推計値	平成 30 年	0.003
	平成 31 年	0.003
	平成 32 年	0.003
	平成 33 年	0.003
	平成 34 年	0.003
	平成 35 年	0.003
	平成 36 年	0.003
	平成 37 年	0.003
	平成 38 年	0.003
	平成 39 年	0.003
	平成 40 年	0.003
採用値		H28~29 の平均値

(2) ビニール・プラスチック

図表 2-4-2 ビニール・プラスチック

単位:t/日		
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	0.07
	平成 26 年	0.04
	平成 27 年	0.07
	平成 28 年	0.04
	平成 29 年	0.06
推計値	平成 30 年	0.06
	平成 31 年	0.06
	平成 32 年	0.06
	平成 33 年	0.06
	平成 34 年	0.06
	平成 35 年	0.06
	平成 36 年	0.06
	平成 37 年	0.06
	平成 38 年	0.06
	平成 39 年	0.06
	平成 40 年	0.06
採用値		H25~29 の平均値

(4) 金物

図表 2-4-4 金物

単位:t/日		
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	0.13
	平成 26 年	0.13
	平成 27 年	0.15
	平成 28 年	0.17
	平成 29 年	0.15
推計値	平成 30 年	0.15
	平成 31 年	0.15
	平成 32 年	0.15
	平成 33 年	0.15
	平成 34 年	0.15
	平成 35 年	0.15
	平成 36 年	0.15
	平成 37 年	0.15
	平成 38 年	0.15
	平成 39 年	0.15
	平成 40 年	0.15
採用値		H25~29 の平均値

(5) ガラス

図表 2-4-5 ガラス

単位:t/日		
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	0.02
	平成 26 年	0.01
	平成 27 年	0.02
	平成 28 年	0.11
	平成 29 年	0.01
推計値	平成 30 年	0.01
	平成 31 年	0.01
	平成 32 年	0.01
	平成 33 年	0.01
	平成 34 年	0.01
	平成 35 年	0.01
	平成 36 年	0.01
	平成 37 年	0.01
	平成 38 年	0.01
	平成 39 年	0.01
	平成 40 年	0.01
採用値		ロジスティック曲線

(7) 瓦礫

図表 2-4-7 瓦礫

単位:t/日		
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	1.03
	平成 26 年	0.91
	平成 27 年	0.93
	平成 28 年	1.03
	平成 29 年	0.96
推計値	平成 30 年	0.97
	平成 31 年	0.97
	平成 32 年	0.97
	平成 33 年	0.97
	平成 34 年	0.97
	平成 35 年	0.97
	平成 36 年	0.97
	平成 37 年	0.97
	平成 38 年	0.97
	平成 39 年	0.97
	平成 40 年	0.97
採用値		H25～29 の平均値

(6) 陶磁器

図表 2-4-6 陶磁器

単位:t/日		
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	0.05
	平成 26 年	0.05
	平成 27 年	0.05
	平成 28 年	0.05
	平成 29 年	0.04
推計値	平成 30 年	0.05
	平成 31 年	0.05
	平成 32 年	0.05
	平成 33 年	0.05
	平成 34 年	0.05
	平成 35 年	0.05
	平成 36 年	0.05
	平成 37 年	0.05
	平成 38 年	0.05
	平成 39 年	0.05
	平成 40 年	0.05
採用値		H25～29 の平均値

(8) 古紙

図表 2-4-8 古紙

単位:t/日		
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	0.10
	平成 26 年	0.09
	平成 27 年	0.09
	平成 28 年	0.10
	平成 29 年	0.06
推計値	平成 30 年	0.07
	平成 31 年	0.06
	平成 32 年	0.06
	平成 33 年	0.06
	平成 34 年	0.05
	平成 35 年	0.05
	平成 36 年	0.05
	平成 37 年	0.05
	平成 38 年	0.05
	平成 39 年	0.05
	平成 40 年	0.05
採用値		ロジスティック曲線

(9) 草木類

図表 2-4-9 草木類

単位:t/日		
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	1.6
	平成 26 年	1.8
	平成 27 年	1.9
	平成 28 年	1.8
	平成 29 年	1.8
推計値	平成 30 年	1.8
	平成 31 年	1.8
	平成 32 年	1.8
	平成 33 年	1.8
	平成 34 年	1.8
	平成 35 年	1.8
	平成 36 年	1.8
	平成 37 年	1.8
	平成 38 年	1.8
	平成 39 年	1.8
	平成 40 年	1.8
採用値		H25～29 の平均値

(11) 小型家電

図表 2-4-11 小型家電

単位:t/日		
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	0.10
	平成 26 年	0.08
	平成 27 年	0.09
	平成 28 年	0.09
	平成 29 年	0.09
推計値	平成 30 年	0.09
	平成 31 年	0.09
	平成 32 年	0.09
	平成 33 年	0.09
	平成 34 年	0.09
	平成 35 年	0.09
	平成 36 年	0.09
	平成 37 年	0.09
	平成 38 年	0.09
	平成 39 年	0.09
	平成 40 年	0.09
採用値		一次傾向線

(10) 古布類

図表 2-4-10 古布類

単位:t/日		
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	0.04
	平成 26 年	0.05
	平成 27 年	0.04
	平成 28 年	0.01
	平成 29 年	0.01
推計値	平成 30 年	0.02
	平成 31 年	0.02
	平成 32 年	0.01
	平成 33 年	0.01
	平成 34 年	0.01
	平成 35 年	0.01
	平成 36 年	0.01
	平成 37 年	0.01
	平成 38 年	0.01
	平成 39 年	0.01
	平成 40 年	0.01
採用値		ロジスティック曲線

5 資源集団回収

資源回収の将来予測は、年間収集量を365日で除して、一日あたりの平均排出量を求め、過去5年の実績値から推計し、将来値を求めた。

(1) ガラス

図表 2-5-1 ガラス

		単位:t/日
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	0.02
	平成 26 年	0.02
	平成 27 年	0.01
	平成 28 年	0.01
	平成 29 年	0.01
推計値	平成 30 年	0.01
	平成 31 年	0.01
	平成 32 年	0.01
	平成 33 年	0.01
	平成 34 年	0.01
	平成 35 年	0.01
	平成 36 年	0.01
	平成 37 年	0.01
	平成 38 年	0.01
	平成 39 年	0.01
	平成 40 年	0.01
採用値		H27～29 の平均値

(3) 古布類

図表 2-5-3 古布類

		単位:t/日
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	0.036
	平成 26 年	0.032
	平成 27 年	0.027
	平成 28 年	0.020
	平成 29 年	0.021
推計値	平成 30 年	0.018
	平成 31 年	0.017
	平成 32 年	0.016
	平成 33 年	0.016
	平成 34 年	0.016
	平成 35 年	0.015
	平成 36 年	0.015
	平成 37 年	0.015
	平成 38 年	0.015
	平成 39 年	0.015
	平成 40 年	0.015
採用値		ロジスティック曲線

(2) 古紙

図表 2-5-2 古紙

		単位:t/日
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	2.0
	平成 26 年	1.9
	平成 27 年	1.6
	平成 28 年	1.5
	平成 29 年	1.3
推計値	平成 30 年	1.3
	平成 31 年	1.2
	平成 32 年	1.2
	平成 33 年	1.1
	平成 34 年	1.1
	平成 35 年	1.1
	平成 36 年	1.1
	平成 37 年	1.1
	平成 38 年	1.1
	平成 39 年	1.1
	平成 40 年	1.1
採用値		ロジスティック曲線

(4) 金属類

図表 2-5-4 金属類

		単位:t/日
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	0.043
	平成 26 年	0.041
	平成 27 年	0.036
	平成 28 年	0.042
	平成 29 年	0.035
推計値	平成 30 年	0.035
	平成 31 年	0.035
	平成 32 年	0.034
	平成 33 年	0.033
	平成 34 年	0.033
	平成 35 年	0.032
	平成 36 年	0.032
	平成 37 年	0.031
	平成 38 年	0.031
	平成 39 年	0.031
	平成 40 年	0.031
採用値		ロジスティック曲線

6 拠点回収

資源回収の将来予測は、年間収集量を365日で除して、一日あたりの平均排出量を求め、過去5年の実績値から推計し、将来値を求めた。

(1) 古紙

図表 2-6-1 古紙

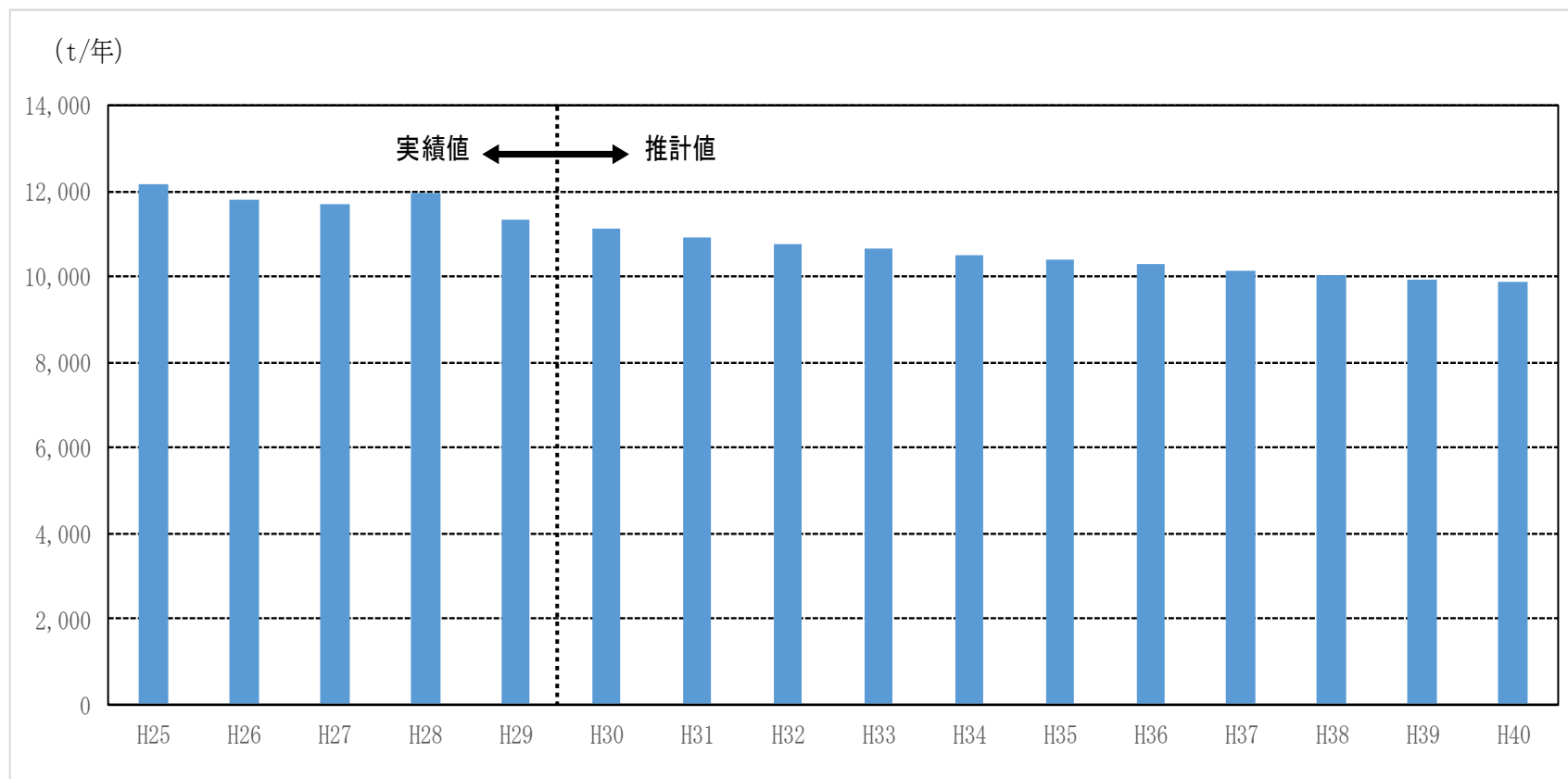
単位:t/日		
年 度		排出量
実績値	平成 25 年	0.52
	平成 26 年	0.51
	平成 27 年	0.57
	平成 28 年	0.52
	平成 29 年	0.51
推計値	平成 30 年	0.50
	平成 31 年	0.50
	平成 32 年	0.50
	平成 33 年	0.50
	平成 34 年	0.49
	平成 35 年	0.49
	平成 36 年	0.49
	平成 37 年	0.49
	平成 38 年	0.49
	平成 39 年	0.49
	平成 40 年	0.49
採用値		ロジスティック曲線

7 推計結果とりまとめ

図表 2-6-1 推計結果とりまとめ

(単位 : t/年)

年度		H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40
人口		34,539	34,104	33,680	33,414	33,244	32,000	31,497	30,994	30,490	29,987	29,484	28,981	28,478	27,974	27,471	26,968
可燃ごみ	収集	5,482	5,554	5,513	5,424	5,376	5,244	5,162	5,079	4,997	4,914	4,832	4,750	4,667	4,585	4,502	4,420
	直接搬入	1,518	1,141	1,069	1,375	1,005	1,016	970	931	900	874	853	836	823	812	803	800
	許可業者	2,191	2,226	2,332	2,434	2,367	2,310	2,310	2,310	2,310	2,310	2,310	2,310	2,310	2,310	2,310	2,310
	計	9,191	8,921	8,914	9,233	8,748	8,570	8,441	8,321	8,207	8,099	7,995	7,896	7,800	7,706	7,615	7,529
ビニール・プラスチック	収集	321	305	299	275	286	265	257	250	244	238	233	227	223	218	213	209
	直接搬入	25	16	26	15	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
	許可業者	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	348	322	326	291	308	285	278	271	265	259	253	248	243	238	234	229
PET ボトル	収集	59	56	56	53	51	48	47	45	43	42	40	39	37	36	35	34
	直接搬入	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	許可業者	0	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	計	59	59	60	58	56	53	51	50	48	47	45	44	42	41	40	38
金物	収集	151	136	137	124	121	127	125	123	121	119	117	115	113	111	109	107
	直接搬入	47	49	54	62	53	53	53	53	53	53	53	53	53	53	53	53
	許可業者	23	15	6	6	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	計	221	200	197	192	179	185	183	181	179	177	175	173	171	169	167	165
ガラス	収集	202	195	194	162	172	166	163	160	158	155	153	150	147	145	142	140
	直接搬入	6	4	6	39	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	許可業者	56	54	47	45	42	45	43	42	42	41	41	41	40	40	40	40
	集団回収	6	6	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	計	270	259	252	250	222	219	215	211	207	204	201	198	196	193	190	188
陶磁器	収集	27	25	26	25	25	24	24	23	23	23	22	22	21	21	21	20
	直接搬入	18	19	19	19	15	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
	計	45	44	45	44	40	42	42	41	41	41	40	40	39	39	39	38
瓦礫	直接搬入	376	333	339	377	352	355	355	355	355	355	355	355	355	355	355	355
蛍光灯 乾電池	収集	19	14	11	13	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
古紙	直接搬入	36	33	32	37	22	25	23	22	21	20	19	19	19	19	19	18
	集団回収	723	692	582	538	489	461	440	426	417	411	408	405	404	403	402	400
	拠点回収	191	185	207	190	185	183	182	181	181	180	180	180	180	180	180	180
	計	950	910	821	765	696	669	645	629	618	611	607	604	602	601	601	598
草木類	直接搬入	597	644	680	659	659	648	648	648	648	648	648	648	648	648	648	648
古布類	直接搬入	14	20	15	5	4	7	6	5	5	4	4	4	4	4	4	4
	集団回収	13	12	10	7	8	7	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5
	計	27	32	25	12	12	13	12	11	10	10	10	10	9	9	9	9
小型家電	直接搬入	35	31	32	32	34	32	32	32	32	32	32	32	31	31	31	31
金属類	集団回収	16	15	13	15	13	13	13	12	12	12	12	12	11	11	11	11
合計		12,154	11,784	11,715	11,941	11,333	11,100	10,930	10,777	10,638	10,509	10,388	10,274	10,164	10,058	9,954	9,856



図表 2-6-2 推計結果とりまとめ

第3章 ごみ処理基本計画

1 基本目標

日本における循環型社会の形成を推進する基本的な枠組みとなる法律であり、環境基本法の下位計画に位置づけされる「循環型社会形成推進基本法」では、廃棄物処理の優先順位を、

1. 発生抑制	2. 再使用	3. 再生利用	4. 熱回収	5. 適正処分
---------	--------	---------	--------	---------

と、法定化している。

本計画においても、ごみの発生・排出抑制を最も高い順位と位置付けし、推進を図ることとする。最終的な廃棄物については、極力再資源化を行うシステムの構築を進める。

(1) ごみ排出量の基本目標

一人一日あたりの排出量は「第2次御前崎市総合計画」の目標値の850gを本計画の目標として設定した。また中間目標として平成35年度に899gとした。

指 標	単位	平成 24 年度	平成 29 年度	平成 35 年度	平成 40 年度
		実 績		目 標	
一人一日あたり のごみ排出量	g/人・ 日	959	948	899	850

(2) リサイクル量の基本目標

平成29年度におけるリサイクル率は30.2%であり、平成24年度と比較すると減少した。数年前より、市内各地に民間企業による紙類やアルミ缶等の回収場所が設置されたことが主因と考えられる。そこで、3R徹底に関する普及・啓発等により、平成40年度は平成24年度と同程度とする目標とした。また中間目標として平成35年度に31.6%とした。

指 標	単位	平成 24 年度	平成 29 年度	平成 35 年度	平成 40 年度
		実 績		目 標	
リサイクル率	%	33.1	30.2	31.6	33.0

(3) 最終処分率の基本目標

最終処分率は平成25年度から平成29年度で2.8～3.2%で推移しており、この期間で最終処分率が低かった2.8%を目標とした。また中間目標として平成35年度に2.95%とした。

指 標	単位	平成 24 年度	平成 29 年度	平成 35 年度	平成 40 年度
		実 績		目 標	
最終処分率	%	7.1	3.1	2.95	2.8

2 排出抑制、減量化、再資源化計画

ごみの適正処理確保のためには、先ずはリフューズ、リデュース、リユースにより、ごみとなるものの量を削減し、その後リサイクルを行い、最後に残ったものについて、適正に処分を行うことが重要である。市民、事業者、市、それぞれの主体における取組について、以下に掲げる。

取組の具体的な内容

市 民	
	過剰包装の拒否、簡易包装の選択をする
	マイバッグ等の持参をする
	必要なものを必要な量だけ購入する
	在庫管理の徹底をする
	使い捨て商品をやめ、詰め替え品を利用する
	エコクッキングを取り入れ、生ごみの減量化を行う
	生ごみ処理機等の導入をし、生ごみの減量化を行う
	雑紙の再資源化を実施する
	店頭回収や資源集団回収を上手に利用する
	ルールを守った分別・排出を心がける
事業者	
	過剰包装を廃止する
	業界でのリフューズに係わる情報交換の周知徹底を行う
	詰め替え製品の開発を行う
	マイバッグ持参の呼びかけを行う
	ISO14001 やエコアクション 21 等を導入する
	雑紙の再資源化を実施する
	社員への環境教育を実施する
	地域社会への貢献のため、地域清掃等を実施する
	店頭での資源回収の導入を推進する
	ルールを守った分別・排出を心がける
行 政	
	排出抑制のための情報の提供を行う
	資源集団回収や生ごみ処理機の購入補助等を行う
	事業者の ISO14001 やエコアクション 21 取得を推進する
	ごみ分別徹底のための呼びかけを行う
	雑紙の再資源化を推進する
	他自治体との情報の共有化により、有効な排出抑制対策を積極的に取り入れる
	収集ごみの有料化の検討を行う

重点施策

本市では、資源循環型社会の実現を目指し、ゴミの分別回収、生ゴミ処理機導入補助金の交付によりゴミの減量化を推進している。また、ゴミの発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再資源化（リサイクル）の3R活動を推進しているが、現状は、周知を徹底することが必要である。そこで、本市における重点施策を以下の通りとする。

ゴミ排出適正化の強化
リデュース・リユース・リサイクル(3R) の徹底
事業系ごみの排出抑制

3 適正処理計画

ごみの収集運搬、中間処理、最終処分の各過程において、環境負荷の低減と処理コストの削減を図りながら、適正な処理を行うことを目指す。

(1) 収集運搬

施 策	内 容
①収集方式	現行のステーション方式及び排出者による処理施設への自己搬入の継続を基本とする。
②収集品目	ごみステーションでの新たな収集品目について検討する。雑紙等が考えられるが、慎重な検討が必要である。
③回収拠点数	ごみステーションの数について、市民ニーズに合わせ追加設置の検討を行う。
④収集回数等	品目ごと収集回数について、市民ニーズに合わせた収集回数の導入を検討する。
⑤適正な体制の構築	事業系一般廃棄物の収集運搬業者に対する指導の徹底を行う。
⑥指定袋のサイズ	指定ごみ袋の種類や形・大きさの検討

(2) 中間処理

施 策	内 容
①焼却施設の整備	牧之原市御前崎市広域施設組合環境保全センターは、計画年度には稼動をしている予定であるが、施設の老朽化が懸念される。関連市町と効率的な処理計画について検討を進める必要がある。 適正管理と効率化に努める。
②資源化施設	リサイクルセンターは計画年度では稼動から21年が経過しており、焼却施設と併せて処理計画を進める必要がある。 適正管理と効率化に努める。
③バイオマス利活用 の検討	流木、間伐材や畜産廃棄物・生ごみ、廃食用油などの未利用バイオマス資源について検討を行う。
④施設整備の研究会 の開催	将来の広域化を含めた施設整備について、近隣市町と検討を進める。

(3) 最終処分

施 策	内 容
①最終処分量の削減	最終処分量の削減に努める。
②焼却灰の再利用計画	灰の溶融化等について検討を行う。
③施設整備の研究会 の開催	将来の施設構想について、上記事項も含め検討を行うため、研究会を開催する。

(4) その他の処理計画

施 策	内 容
①ごみステーション の適正管理	ごみステーションの管理は、分別方法の周知・徹底を行うとともに、地域の協力を得て、ルールに違反しているごみを減らす等適正な管理に努める。
②不法投棄の防止	県や警察、地域のパトロールとの連携による不法投棄の監視・早期発見・再発防止に備えるとともに、HPや広報等により、未然防止の周知徹底を図る。
③災害廃棄物の処理	災害の発生時におけるごみの処理等について、マニュアルを作成する。この場合、廃棄物の仮置き場については、民間の土地を借り上げる必要性も考えられるため、地権者との事前協議等を進める必要がある。

第3編 生活排水編

第1章 概要及び現状

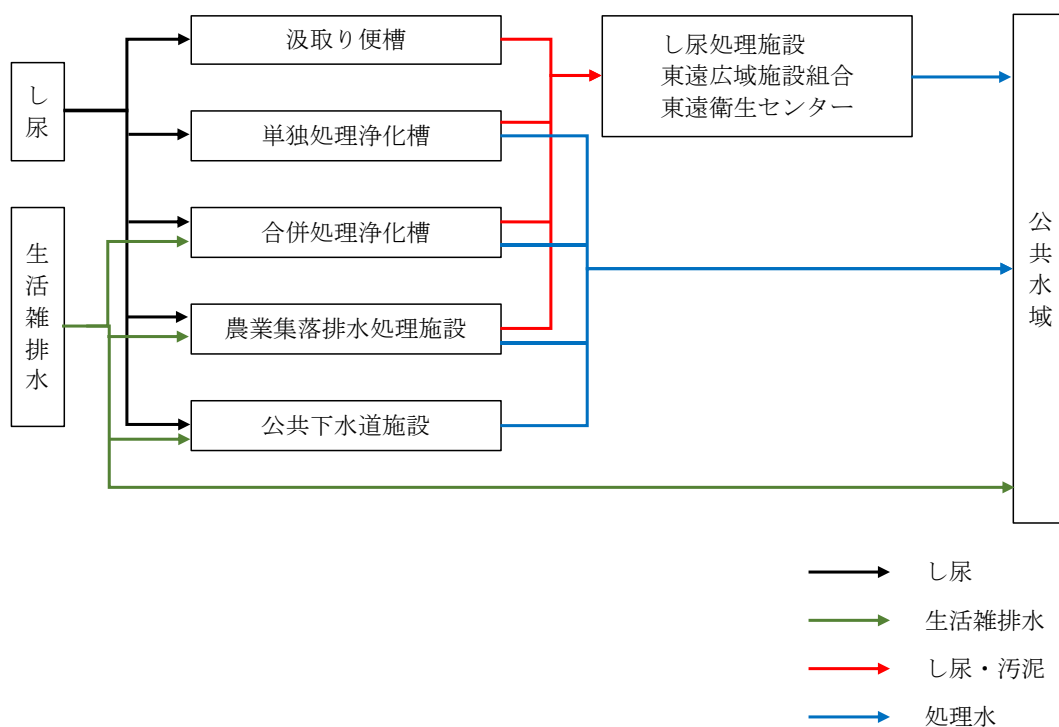
1 処理主体及び形態等

本市のし尿及び生活雑排水、浄化槽汚泥の処理主体・形態について以下に示す。

図表 1-1-1 処理方法等

処理方法	処理主体	対象となる排水の種類	主な地区
公共下水道	市	し尿、生活雑排水	池新田地区、高松地区 佐倉地区（一部）
農業集落排水	市	し尿、生活雑排水	佐倉地区、忍沢地区、 下朝比奈地区、上朝比 奈地区、比木地区、新 野地区
合併処理浄化槽	設置者	し尿、生活雑排水	御前崎地区、白羽地区
単独処理浄化槽	設置者	し尿	御前崎地区、白羽地区
汲取り	設置者	し尿	-
し尿処理施設 (東遠広域施設組合)	組合	し尿、浄化槽汚泥	御前崎地区、白羽地区

2 生活排水処理のフロー



図表 1-2-1 生活排水処理のフロー

3 生活排水処理施設の現状

(1) し尿処理施設の概要

本市におけるし尿処理施設の概要について、以下に示す。

名 称	東遠衛生センター
所在地	静岡県御前崎市池新田 9035 番地
処理能力	195kℓ/日(し尿 25kℓ/日、浄化槽汚泥 170kℓ/日)
処理方式	膜分離高負荷生物脱窒素処理方式＋高度処理
延床面積	5,418 m ²
建築構造	鉄筋コンクリート造、地下 1 階・地上 3 階
受入貯留設備	夾雑物除去装置(ドラムスクリーン、スクリーンプレス)＋微細砂除去装置
膜分離高負荷処理設備	高負荷脱窒素処理方式＋膜分離方式
高度処理設備	凝集膜分離方式＋活性炭吸着塔
汚泥処理設備	脱水＋乾燥焼却
脱臭設備	高濃度臭気(薬液洗浄＋活性炭吸着)、低濃度臭気(活性炭吸着)

放流水質

項 目	放流水質
pH	5.8～8.6
BOD	10mg/ℓ以下
SS	10mg/ℓ以下
COD	20mg/ℓ以下
T-N	10mg/ℓ以下
T-P	1mg/ℓ以下
色度	30 度以下
大腸菌群数	100 個/c m ³ 以下



東遠衛生センター

(2) 下水道処理施設の概要

本市の下水道処理施設について、公共下水道と農業集落排水それぞれの施設の概要を以下に示す。

農業集落排水は、西暦 2035 年をめどに人口推移を見ながら公共下水道へ統合していく。また、全国的な広域共同化の推移において維持管理等の共同化を検討していく。

ア. 公共下水道

(ア) 池新田浄化センター



下水道法認可：平成 3 年 9 月

施設着手：平成 4 年

供用開始：平成 7 年 4 月

処理方式

水 処 理：オキシデーションディッチ法

汚泥処理：濃縮、脱水

計画下水量

日 平 均：4, 9 0 0 m³/日

日 最 大：5, 9 0 0 m³/日

時間最大：8, 5 0 0 m³/日

流入水質：BOD 2 0 0 m g / l

SS 2 0 0 m g / l

放流水質：BOD 1 5 m g / l

SS 2 0 m g / l

処理人口：1 1, 7 0 0 人

放 流 先：新野川

(イ) 高松浄化センター



下水道法認可：平成 6 年 1 1 月

施設着手：平成 7 年

供用開始：平成 1 1 年 4 月

処理方式

水 処 理：オキシデーションディッチ法

汚泥処理：オゾン減量・濃縮

計画下水量

日 平 均：1, 6 0 0 m³/日

日 最 大：1, 9 0 0 m³/日

時間最大：2, 8 0 0 m³/日

流入水質：BOD 2 0 0 m g / l

SS 1 9 0 m g / l

放流水質：BOD 1 5 m g / l

SS 2 0 m g / l

処理人口：3, 7 0 0 人

放 流 先：西村川

イ. 農業集落排水

(ア) 佐倉処理施設



処理方式：分流式（集落排水協会Ⅲ型）

計画人口：1, 520人（221戸）

計画下水量

日平均：411 m^3 /日

日最大：502 m^3 /日

放流先：箴川

(イ) 忍沢処理施設



処理方式：分流式（集落排水協会ⅩⅠ型）

計画人口：3, 520人（499戸）

計画下水量

日平均：950 m^3 /日

日最大：1, 145 m^3 /日

放流先：箴川

(ウ) 下朝比奈処理施設



処理方式：分流式（集落排水協会Ⅲ型）

計画人口：1, 570人（230戸）

計画下水量

日平均：424 m^3 /日

日最大：518 m^3 /日

放流先：新野川

(エ) 上朝比奈処理施設



処理方式：分流式（集落排水協会ⅩⅠ型）

計画人口：1,940人（407戸）

計画下水量

日平均：524 m^3 /日

日最大：640 m^3 /日

放流先：朝比奈川

(オ) 比木処理施設



処理方式：分流式（集落排水協会ⅩⅠ型）

計画人口：2,380人（490戸）

計画下水量

日平均：643 m^3 /日

日最大：785 m^3 /日

放流先：箴川

(カ) 新野処理施設



処理方式：分流式（集落排水協会ⅩⅠ型）

計画人口：2,200人（435戸）

計画下水量

日平均：594 m^3 /日

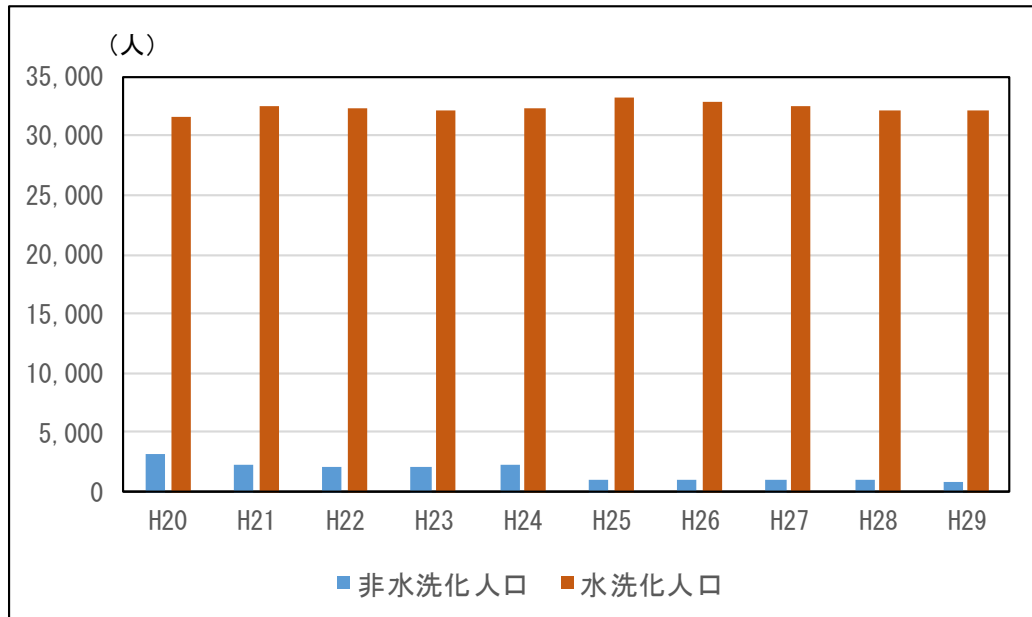
日最大：736 m^3 /日

放流先：新野川

4 生活排水処理の現状

(1) 水洗化人口

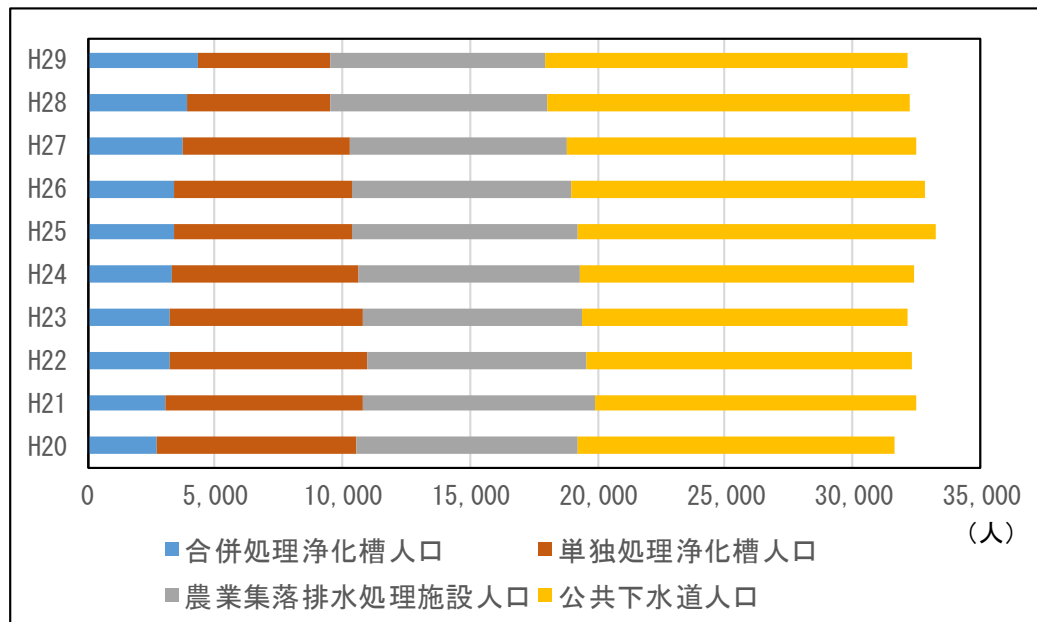
本市における水洗化人口、非水洗化人口について示したものが以下である。



図表 1-4-1 水洗化人口

(2) 処理別人口

処理別人口を以下に示す。本市における処理方式では、公共下水道と農業集落排水の処理を主として進められてきたことがわかる。



図表 1-4-2 処理別人口

(3) 処理別人口率

処理別人口率についてまとめたものが以下である。

図表 1-4-3 処理別人口率

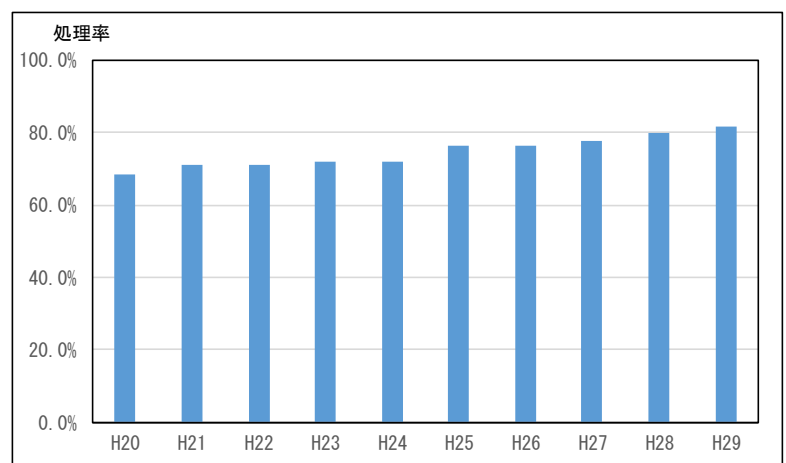
年 度	非水洗化人口	公共下水道人口	農業集落排水処理施設人口	合併処理浄化槽	単独処理浄化槽
平成 20 年度	9.3%	35.6%	24.9%	7.8%	22.4%
平成 21 年度	6.5%	36.2%	26.1%	8.7%	22.4%
平成 22 年度	6.3%	37.0%	24.9%	9.3%	22.5%
平成 23 年度	6.0%	37.2%	25.2%	9.5%	22.0%
平成 24 年度	6.6%	37.8%	24.9%	9.5%	21.2%
平成 25 年度	3.0%	40.8%	25.8%	9.8%	20.6%
平成 26 年度	3.0%	40.9%	25.5%	10.0%	20.6%
平成 27 年度	3.0%	40.8%	25.6%	11.2%	19.4%
平成 28 年度	3.0%	42.8%	25.6%	11.7%	17.0%
平成 29 年度	2.5%	43.1%	25.5%	13.0%	15.9%

(4) 生活雑排水処理率

生活雑排水の処理率について以下に示す。

図表 1-4-4 生活雑排水処理率

年 度	生活雑排水処理率
平成 20 年度	68.3%
平成 21 年度	71.1%
平成 22 年度	71.2%
平成 23 年度	71.9%
平成 24 年度	72.2%
平成 25 年度	76.4%
平成 26 年度	76.4%
平成 27 年度	77.6%
平成 28 年度	80.0%
平成 29 年度	81.6%



図表 1-4-5 生活雑排水処理率

(5) 生活排水処理別人口

生活雑排水処理別人口について、以下に示す。

図表 1-4-6 生活雑排水処理別人口

(単位：人)

年度	総人口	非水洗化人口			水洗化人口	公共下水道人口	コミュニティ・プラント人口	農業集落排水処理施設人口	浄化槽人口		
			計画収集人口	自家処理人口						合併処理浄化槽	単独処理浄化槽
平成 20 年度	34,892	3,241	3,241	0	31,651	12,428	0	8,687	10,536	2,733	7,803
平成 21 年度	34,762	2,251	2,251	0	32,511	12,591	0	9,088	10,832	3,037	7,795
平成 22 年度	34,540	2,166	2,166	0	32,374	12,779	0	8,589	11,006	3,220	7,786
平成 23 年度	34,221	2,066	2,066	0	32,155	12,740	0	8,631	10,784	3,248	7,536
平成 24 年度	34,702	2,288	2,288	0	32,414	13,114	0	8,645	10,655	3,312	7,343
平成 25 年度	34,273	1,026	1,026	0	33,247	13,983	0	8,853	10,411	3,362	7,049
平成 26 年度	33,835	1,020	1,020	0	32,815	13,832	0	8,642	10,341	3,377	6,964
平成 27 年度	33,488	999	999	0	32,489	13,668	0	8,574	10,247	3,743	6,504
平成 28 年度	33,227	999	999	0	32,228	14,208	0	8,490	9,530	3,872	5,658
平成 29 年度	32,996	840	840	0	32,156	14,225	0	8,399	9,532	4,290	5,242

※人口は、10 月 1 日現在。なお、平成 24 年度以降は外国人を含む。

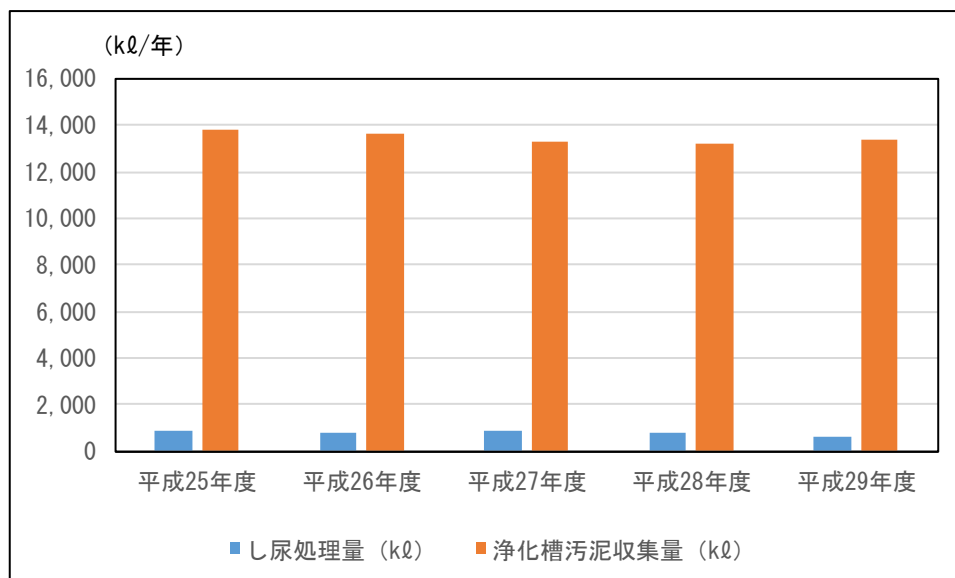
※総人口、公共下水道人口：「一般廃棄物処理事業のまとめ」静岡県

(6) し尿及び浄化槽汚泥の収集量

し尿及び浄化槽汚泥の収集量について、以下に示す。

図表 1-4-7 し尿及び浄化槽汚泥の収集量

年 度	し尿収集量(kℓ)	浄化槽汚泥収集量(kℓ)
平成 25 年度	892	13,786
平成 26 年度	783	13,632
平成 27 年度	905	13,326
平成 28 年度	748	13,237
平成 29 年度	646	13,437



図表 1-4-8 し尿及び浄化槽汚泥の収集量

(7) 下水道汚泥の収集量

下水道汚泥収集量について、以下に示す。

図表 1-4-9 下水道汚泥の収集量

年 度	下水道汚泥収集量(t)
平成 25 年度	1,185.3
平成 26 年度	1,202.2
平成 27 年度	1,228.3
平成 28 年度	1,187.8
平成 29 年度	1,039.8

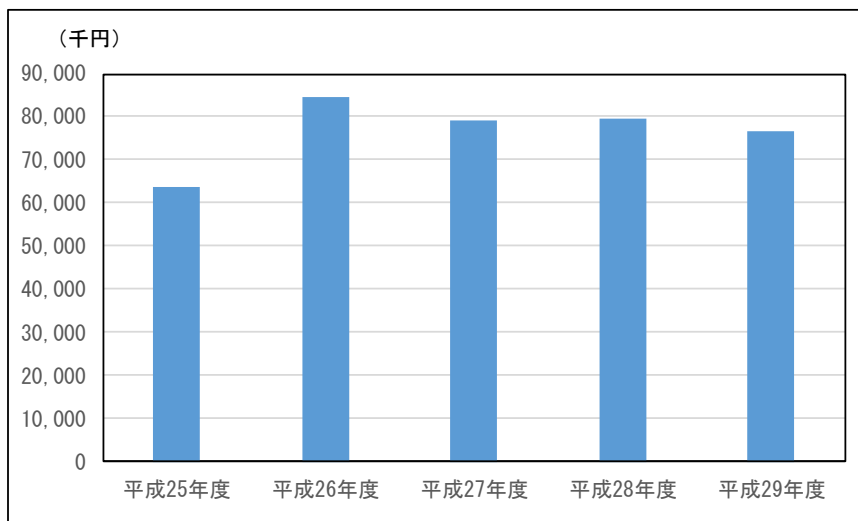
5 し尿及び処理槽汚泥処理経費

し尿及び処理槽汚泥処理経費について以下に示す。

図表 1-5-1 し尿及び処理槽汚泥処理経費

年 度	分担金(千円)
平成 25 年度	63,837
平成 26 年度	84,747
平成 27 年度	79,298
平成 28 年度	79,430
平成 29 年度	76,777

※分担金は、東遠広域施設組合の施設運営費分担金



図表 1-5-2 し尿及び処理槽汚泥処理経費

6 課題

(1) 生活排水対策

生活雑排水の処理率は、平成 29 年度末で 81.6%となっており、残りの 18.4%は、河川へ未処理のまま放流されている。合併浄化槽の設置や公共下水道への接続を早期に進める必要がある。

(2) し尿及び処理槽汚泥処理

目標年次である平成 40 年度には、東遠広域施設組合東遠衛生センターは、完成から 28 年が経過しており、適切な維持管理が望まれる。

第2章 将来予測

1 生活排水処理形態別人口

生活排水処理形態別に人口の算定を行った。

計画処理区域内人口については、ごみ編で用いた人口を利用した。

し尿収集人口、公共下水道人口、農業集落排水処理人口、単独浄化槽人口については、推計式に当てはめ、妥当性の高い推計式を採用した。

合併処理浄化槽人口については、計画処理区域内人口から、上記より算定した人口を差し引くことで算定を行った。

生活排水処理形態別人口の算定方法

1. 計画処理区域内人口	ごみ編で用いた人口を採用
2. 農業集落排水処理施設人口	過去の収集人口から推計式に当てはめ算定
3. し尿収集人口	過去のし尿収集人口から推計式に当てはめ算定
4. 単独処理浄化槽人口	過去の単独処理浄化槽人口から推計式に当てはめ算定
5. 合併処理浄化槽人口	計画処理区域内人口から、上記2.～4.を差し引いて算定



御前崎の風景（マリンパークより御前崎港を望む）

(3) 単独処理浄化槽

対象地区の世帯当り人口(2.8)に基数(100)を乗じた 280 人を毎年減少させ算出した。

(1) し尿収集人口

図表 2-1-1 し尿収集人口

		単位：人
年 度		人 口
実績値	平成 25 年	1,026
	平成 26 年	1,020
	平成 27 年	999
	平成 28 年	999
	平成 29 年	840
推計値	平成 30 年	859
	平成 31 年	820
	平成 32 年	780
	平成 33 年	741
	平成 34 年	702
	平成 35 年	662
	平成 36 年	623
	平成 37 年	584
	平成 38 年	545
	平成 39 年	505
	平成 40 年	466
採用値		一次傾向線

図表 2-1-3 単独処理浄化槽人口

		単位：人
年 度		人 口
実績値	平成 25 年	7,049
	平成 26 年	6,964
	平成 27 年	6,504
	平成 28 年	5,658
	平成 29 年	5,242
推計値	平成 30 年	4,962
	平成 31 年	4,682
	平成 32 年	4,402
	平成 33 年	4,122
	平成 34 年	3,842
	平成 35 年	3,562
	平成 36 年	3,282
	平成 37 年	3,002
	平成 38 年	2,722
	平成 39 年	2,442
	平成 40 年	2,162
採用値		280 人/年の減少

(2) 下水道人口

図表 2-1-2 下水道人口

		単位：人
年 度		人 口
実績値	平成 25 年	13,983
	平成 26 年	13,832
	平成 27 年	13,668
	平成 28 年	14,208
	平成 29 年	14,225
推計値	平成 30 年	14,220
	平成 31 年	14,293
	平成 32 年	14,362
	平成 33 年	14,430
	平成 34 年	14,495
	平成 35 年	14,557
	平成 36 年	14,617
	平成 37 年	14,675
	平成 38 年	14,731
	平成 39 年	14,784
	平成 40 年	14,836
採用値		ロジスティック曲線

(4) 農業集落排水処理施設人口

図表 2-1-4 農業集落排水処理施設人口

		単位：人
年 度		人 口
実績値	平成 25 年	8,853
	平成 26 年	8,642
	平成 27 年	8,574
	平成 28 年	8,490
	平成 29 年	8,399
推計値	平成 30 年	8,085
	平成 31 年	7,958
	平成 32 年	7,830
	平成 33 年	7,703
	平成 34 年	7,576
	平成 35 年	7,449
	平成 36 年	7,322
	平成 37 年	7,195
	平成 38 年	7,068
	平成 39 年	6,941
	平成 40 年	6,813
採用値		総人口のトレンド

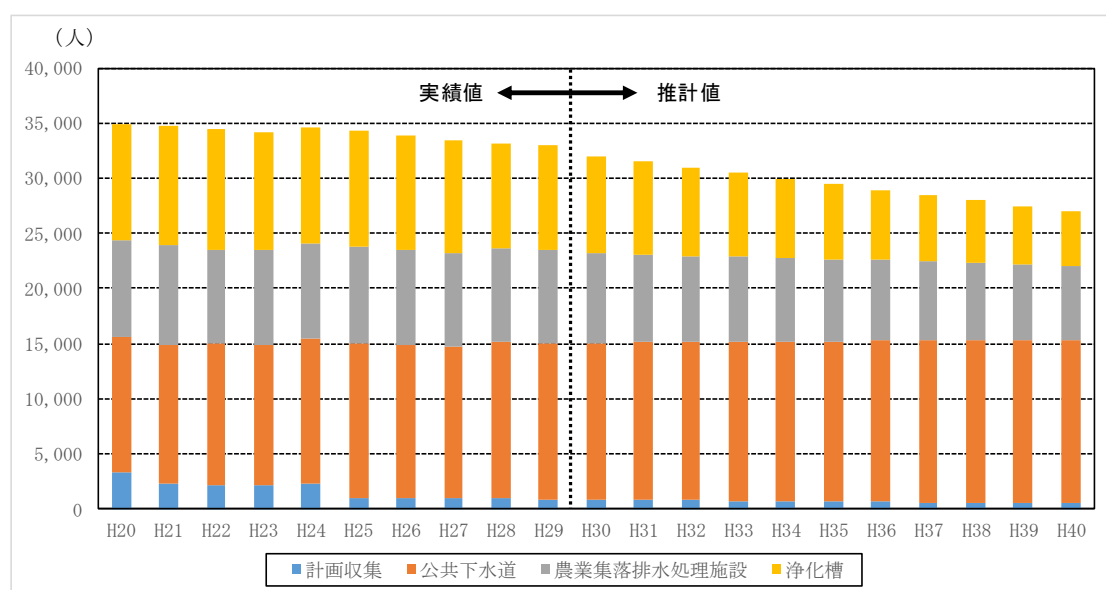
(5) 生活排水処理形態別人口

図表 2-1-4 生活排水処理形態別人口

(単位：人)

年度	総人口	非水洗化人口	計画収集人口	自家処理人口	水洗化人口	公共下水道人口	コミュニティ・プラント人口	農業集落排水処理施設人口	浄化槽人口	浄化槽	
										合併処理浄化槽	単独処理浄化槽
平成 20 年度	34,892	3,241	3,241	0	31,651	12,428	0	8,687	10,536	2,733	7,803
平成 21 年度	34,762	2,251	2,251	0	32,511	12,591	0	9,088	10,832	3,037	7,795
平成 22 年度	34,540	2,166	2,166	0	32,374	12,779	0	8,589	11,006	3,220	7,786
平成 23 年度	34,221	2,066	2,066	0	32,155	12,740	0	8,631	10,784	3,248	7,536
平成 24 年度	34,702	2,288	2,288	0	32,414	13,114	0	8,645	10,655	3,312	7,343
平成 25 年度	34,273	1,026	1,026	0	33,247	13,983	0	8,853	10,411	3,362	7,049
平成 26 年度	33,835	1,020	1,020	0	32,815	13,832	0	8,642	10,341	3,377	6,964
平成 27 年度	33,488	999	999	0	32,489	13,668	0	8,574	10,247	3,743	6,504
平成 28 年度	33,227	999	999	0	32,228	14,208	0	8,490	9,530	3,872	5,658
平成 29 年度	32,996	840	840	0	32,156	14,225	0	8,399	9,532	4,290	5,242
平成 30 年度	32,000	859	859	0	31,141	14,220	0	8,085	8,836	3,874	4,962
平成 31 年度	31,497	820	820	0	30,677	14,293	0	7,958	8,427	3,745	4,682
平成 32 年度	30,994	780	780	0	30,213	14,362	0	7,830	8,020	3,618	4,402
平成 33 年度	30,490	741	741	0	29,749	14,430	0	7,703	7,616	3,494	4,122
平成 34 年度	29,987	702	702	0	29,286	14,495	0	7,576	7,215	3,373	3,842
平成 35 年度	29,484	662	662	0	28,822	14,557	0	7,449	6,815	3,253	3,562
平成 36 年度	28,981	623	623	0	28,358	14,617	0	7,322	6,418	3,136	3,282
平成 37 年度	28,478	584	584	0	27,894	14,675	0	7,195	6,024	3,022	3,002
平成 38 年度	27,974	545	545	0	27,430	14,731	0	7,068	5,631	2,909	2,722
平成 39 年度	27,471	505	505	0	26,966	14,784	0	6,941	5,241	2,799	2,442
平成 40 年度	26,968	466	466	0	26,502	14,836	0	6,813	4,853	2,691	2,162

※平成 30 年度以降は推計値



図表 2-1-5 生活排水処理形態別人口

2 し尿収集量及び浄化槽汚泥・下水道汚泥収集量の見通し

(1) し尿収集量

し尿収集量の見通しについて算定した。し尿収集の原単位は、実績値の平均値である。

$$\text{し尿収集量の原単位 (l/人・日)} = \text{し尿収集量 (kl/年)} / \text{収集人口(人)} / 365 \text{ (日)} \times 1,000$$

図表 2-2-1 し尿収集量及び浄化槽汚泥・下水道汚泥収集量の見通し

年度	し尿収集人口(人)	原単位(l/人・日)	し尿収集量(kl)
平成 25 年度	1,026	2.38	892
平成 26 年度	1,020	2.10	783
平成 27 年度	999	2.48	905
平成 28 年度	999	2.05	748
平成 29 年度	840	2.11	646
平成 30 年度	859	2.23	698
平成 31 年度	820	2.23	666
平成 32 年度	780	2.23	634
平成 33 年度	741	2.23	602
平成 34 年度	702	2.23	570
平成 35 年度	662	2.23	538
平成 36 年度	623	2.23	506
平成 37 年度	584	2.23	474
平成 38 年度	545	2.23	442
平成 39 年度	505	2.23	410
平成 40 年度	466	2.23	378

※平成 30 年度以降は推計値

(2) 浄化槽汚泥収集量

浄化槽汚泥収集量については、単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への移行が進むが、人口の減少に伴い、全体的な汚泥量は減少するものと予測される。

図表 2-2-2 浄化槽汚泥収集量 (単位：kℓ)

年度	単独処理浄化槽	合併処理浄化槽	合 計
平成 25 年度	7,820	5,967	13,787
平成 26 年度	7,675	5,955	13,630
平成 27 年度	6,938	6,388	13,326
平成 28 年度	6,318	6,918	13,236
平成 29 年度	5,818	7,619	13,437
平成 30 年度	5,470	6,830	12,300
平成 31 年度	5,161	6,602	11,763
平成 32 年度	4,852	6,379	11,231
平成 33 年度	4,544	6,160	10,704
平成 34 年度	4,235	5,946	10,181
平成 35 年度	3,926	5,735	9,662
平成 36 年度	3,618	5,529	9,147
平成 37 年度	3,309	5,327	8,636
平成 38 年度	3,000	5,129	8,129
平成 39 年度	2,692	4,935	7,626
平成 40 年度	2,383	4,744	7,127

※平成 30 年度以降は推計値

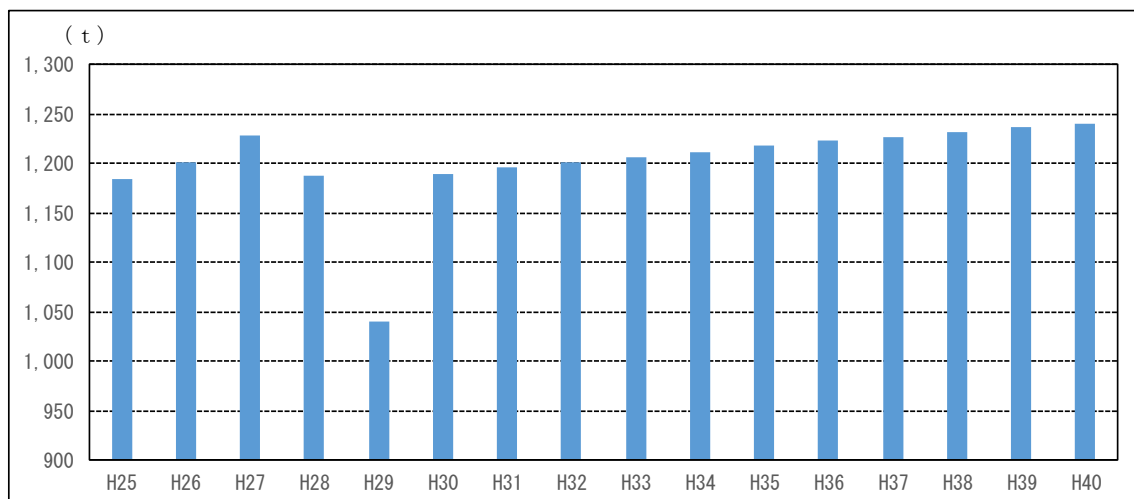
(3) 下水道汚泥収集量

下水道汚泥収集量の見通しについて算定した。下水道汚泥収集量の原単位は、実績値の平均値である。

図表 2-2-3 下水道汚泥収集量

年 度	下水道汚泥収集量(t)
平成 25 年度	1,185
平成 26 年度	1,202
平成 27 年度	1,228
平成 28 年度	1,188
平成 29 年度	1,040
平成 30 年度	1,189
平成 31 年度	1,196
平成 32 年度	1,201
平成 33 年度	1,207
平成 34 年度	1,212
平成 35 年度	1,218
平成 36 年度	1,223
平成 37 年度	1,228
平成 38 年度	1,232
平成 39 年度	1,237
平成 40 年度	1,241

※ 平成 30 年度以降は推計値



図表 2-2-4 下水道汚泥収集量

第3章 生活排水処理基本計画

1 生活排水処理計画

生活排水の処理は、今後も継続して公共下水道、農業集落排水への接続促進を行っていく。また、浄化槽対応区域となっている御前崎地区は、補助制度により汲取り槽や単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を促進していく。

(1) 基本目標

生活排水処理計画に係わる基本目標を下記に掲げる。

指 標	単位	平成 24 年度	平成 29 年度	平成 35 年度	平成 40 年度
		実 績		目 標	
生活雑排水 処 理 率	%	72.2	81.6	86.0	90.3

(2) 生活排水処理施設の整備計画

生活排水処理施設には、次頁に示すとおり、その処理規模や立地条件等の特徴がある。

生活排水処理施設の計画の策定、事業の実施に当たっては、処理規模や立地条件から、適した処理施設を選択することが必要である。

本市における生活雑排水処理設備の整備計画は以下の通りである。

ア. 公共下水道

現在、本市の施設別処理人口で最も多いのが公共下水道である。下水道事業については今後も下水道への接続を推進していく。

イ. 農業集落排水

本市における施設別処理人口で、2 番目に多いのが農業集落排水である。市内に 6 つの処理施設があり、平成 29 年度末現在で、8,399 人が利用している。計画人口は 6 施設の合計で 13,130 人のため、理論上ではあと 4,731 人分の処理を行える計算となる。今後、広域共同化による公共下水道との施設の集約を検討していく。

ウ. 合併浄化槽

御前崎地区は、浄化槽対応区域となっているため、合併浄化槽設置費補助制度を活用し、設置を推進する。また、11 人槽以上の合併処理浄化槽の設置に際しては、窒素又はリン除去型の高度処理型合併処理浄化槽の設置を呼びかけることにより、負荷の低減を図る。

エ. コミュニティ・プラント

現在、市内にはコミュニティ・プラントとして稼働している施設はない。下水道対象区域外において、新規に開発される団地や住宅地等、コミュニティ・プラントの導入が望ましい場合において、経済性や環境面を十分考慮の上、検討を行う。

処理施設名	事業の進め方の特徴	普及している地域、 または普及しやすいと考えられる地域
合併処理浄化槽	新規に開発される団地、新築建物等に設置する。 また既存の住宅、建物の汲取り便所、単独処理浄化槽を敷設替える。各戸別の小規模なものから大規模なものまで設置者の事情に合わせて選択できる	・新規に団地等で開発される地域 ・増改築が行われる建物等 ・地域あるいは集落毎にもしくは各戸別に生活排水を処理することが適当な地域 ・住民参加による生活排水処理の推進が進められている地域
コミュニティ・プラント	新規に開発される団地や住宅地、農産漁村の既存小集落等の面整備を行う。	・新規に団地等が開発される地域 ・地域あるいは集落毎に生活排水を処理することが適当な地域
農業集落排水	農業振興地域の集落の面整備を行う。	農業振興地域に集落が発達している地域
流域下水道	河川の兩岸、国道等に幹線を敷設し、幹線や終末処理場に近い都市から面整備を進める。	・規模の大きい河川や湖沼の流域に都市が発達している地域 ・公共下水道を建設していない都市が近接している地域
公共下水道	都市の市街地、団地、住宅地等の人口密集地区において面整備を進める。	・既成都市の中心部 ・都市の宅地等の開発が進められている地域 ・流域下水道の幹線が敷設されている都市
特定環境保全公共下水道、簡易な下水道	自然公園、水源地等農山漁村の集落の面整備を行う。	・河川や山の斜面に沿って集落が発達している地域

2 し尿・汚泥処理計画

(1) 処理対象物

処理対象物はし尿と浄化槽汚泥とする。

(2) 計画処理量

計画処理量は以下の通りとする。

	単 位	平成 24 年度	平成 29 年度	平成 35 年度	平成 40 年度
		実 績		目 標	
し 尿	kl	1,025	646	512	378
浄化槽汚泥	kl	14,047	13,437	9,393	5,349
合 計	kl	15,072	14,083	9,905	5,727

(3) 収集運搬計画

ア. 基本目標

単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への移行が進むことにより、今後は浄化槽汚泥量の増加が見込まれる。

収集運搬は、市民サービスとして重要な位置付けにあるため、今後も効率的な収集運搬を継続する必要がある。

イ. 収集区域の範囲

本市の公共下水道対象区域外を対象とする。

ウ. 収集・運搬体制

し尿及び浄化槽汚泥の収集運搬については、現行どおり、許可業者により実施し、また今後も維持していくものとする。

エ. 目標へ向けた施策

<収集計画の検討>

対象者の減少等を考慮に入れ、衛生的かつ効率的な運用が行えるよう検討する。

<指導・教育の実施>

許可業者に対する安全・衛生に関する指導・教育を徹底する。

（４）中間処理計画

ア．基本目標

収集されるし尿・浄化槽汚泥については、処理施設の周辺環境に配慮しながら適正な処理を行う。

イ．処理施設

目標年次での東遠広域施設組合東遠衛生センターは、稼動 18 年となり、老朽化が予測される。このため、中長期計画に基づく予防保全を図りながら、適正な維持管理を進める。

ウ．目標へ向けた施策

適正な運転管理の実施。

周辺環境へ配慮した適正な運転管理を行う。

エ．施設整備の研究会の開催

将来の広域化を視野に入れた施設整備や広域処理システム等について、本市、近隣市町及び一部事務組合で構成する研究会で検討を進める。

（５）最終処分計画

ア．基本目標

中間処理施設から排出される汚泥については、衛生面に配慮しながら、適切に処理を行う必要がある。また、最終処分場延命化の観点からも、汚泥の再利用化について検討することが重要である。

イ．最終処分方法

脱水及び焼却を継続して行うものとする。

一方、再利用の方法について検討を進めていくものとする。

ウ．目標に向けた施策

適正な最終処分の実施。

衛生面に配慮した効率的な最終処分を行うと共に、再利用方法を検討する。

エ．施設整備の研究会の開催

将来の広域化を含めた施設整備について、本市、近隣市町等で検討を進める。

3 広報・啓発活動計画

(1) 基本目標

本市は、自家処理世帯がないため、し尿が直接公共の水域に流れることはないが、汲取り、単独浄化槽世帯では、生活雑排水（台所や風呂からの排水）が未処理のまま、河川に排出されている。こうした事実を市民に伝え、市民の「川や海をきれいにしたい」という思いとリンクさせることで、環境美化への意識を高め、合併処理浄化槽及び公共下水道の必要性について周知・啓発していく。

(2) 啓発活動の手段及び内容

- ・ 広報誌・HP・回覧板等による情報発信
- ・ 環境に係わるセミナーやシンポジウム、イベント、体験学習等の開催
- ・ 学校・公民館等における環境学習の実施
- ・ 市民と連携した研修会の開催



御前崎の風景（茶畑）

資 料

- 推計資料

推計資料

1. 収集ごみ

(1) 可燃ごみ

単位：g/人・日

年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	一次指数曲線	べき曲線	ロジスティック
25	434.8	440.5	435.8	440.3	440.2	435.1
26	446.2	442.0	444.1	441.8	441.8	445.1
27	448.5	443.5	447.9	443.3	443.4	447.9
28	444.7	445.0	447.1	444.8	445.0	448.7
29	443.1	446.4	441.8	446.3	446.5	448.9
30		447.9	431.8	447.8	447.9	449.0
31		449.4	417.3	449.3	449.3	449.0
32		450.9	398.2	450.9	450.7	449.0
33		452.4	374.5	452.4	452.0	449.0
34		453.9	346.3	453.9	453.3	449.0
35		455.4	313.4	455.5	454.6	449.0
36		456.9	276.0	457.0	455.8	449.0
37		458.4	234.0	458.6	457.0	449.0
38		459.9	187.5	460.2	458.2	449.0
39		461.4	136.4	461.7	459.3	449.0
40		462.9	80.6	463.3	460.4	449.0
係数		$yt=a+bt$	$yt=a+bt+ct^2$	$yt=a \cdot b^t$	$yt=a \cdot t^b$	$yt=K/(1+e^{-(a-bx)})$
a		403.06	-1260.4	404.39	323.59	28.62
b		1.4961	125.05	1.00	0.0956	1.28
c			-2.2881			
K						449.00
r		0.45	0.94	0.46	0.48	0.85

(2) ビニール・プラスチック

単位：g/人・日

年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	一次指数曲線	べき曲線	ロジスティック
25	25.5	25.2	25.6	25.1	25.3	25.1
26	24.5	24.7	24.5	24.5	24.6	24.5
27	24.3	24.1	23.7	23.9	24.0	23.9
28	22.5	23.5	23.3	23.3	23.5	23.4
29	23.6	22.9	23.3	22.8	22.9	23.0
30		22.4	23.5	22.2	22.5	22.7
31		21.8	24.2	21.7	22.0	22.4
32		21.2	25.1	21.2	21.5	22.1
33		20.6	26.4	20.7	21.1	21.9
34		20.1	28.0	20.2	20.7	21.8
35		19.5	30.0	19.7	20.3	21.6
36		18.9	32.3	19.3	20.0	21.5
37		18.3	34.9	18.8	19.6	21.4
38		17.8	37.9	18.4	19.3	21.3
39		17.2	41.2	17.9	19.0	21.3
40		16.6	44.9	17.5	18.6	21.2
係数		$yt=a+bt$	$yt=a+bt+ct^2$	$yt=a \cdot b^t$	$yt=a \cdot t^b$	$yt=c-(c-K)/(1+e^{-(a-bx)})$
a		39.576	162.66	45.697	201.35	4.19
b		-0.5739	-9.7162	0.98	-0.645	0.21
c			0.1693			38.00
K						21.00
r		0.83	0.88	0.82	0.83	0.85

(3) ペットボトル

単位：g/人・日

年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	一次指数曲線	べき曲線	ロジスティック
25	4.7	4.7	4.6	4.7	4.7	4.7
26	4.5	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6
27	4.6	4.5	4.5	4.4	4.5	4.5
28	4.3	4.3	4.4	4.3	4.3	4.3
29	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2
30		4.1	4.0	4.1	4.2	4.1
31		4.0	3.8	4.0	4.1	4.0
32		3.9	3.6	3.9	4.0	3.9
33		3.8	3.3	3.8	3.9	3.8
34		3.7	3.0	3.7	3.8	3.8
35		3.6	2.7	3.6	3.7	3.7
36		3.5	2.4	3.6	3.7	3.6
37		3.4	2.0	3.5	3.6	3.5
38		3.2	1.6	3.4	3.5	3.5
39		3.1	1.2	3.3	3.5	3.4
40		3.0	0.8	3.2	3.4	3.4
係数		$yt=a+bt$	$yt=a+bt+ct^2$	$yt=a \cdot b^t$	$yt=a \cdot t^b$	$yt=c-(c-K)/(1+e^{-(a-bx)})$
a		7.4456	-2.3657	8.7376	40.523	3.95
b		-0.1107	0.6181	0.98	-0.67	0.15
c			-0.0135			6.00
K						3.00
r		0.94	0.95	0.94	0.94	0.94

(4) 陶磁器

単位：g/人・日

年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	一次指数曲線	べき曲線	ロジスティック
25	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1
26	2.0	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1
27	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1
28	2.0	2.1	2.1	2.0	2.1	2.1
29	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.1
30		2.0	2.1	2.0	2.0	2.1
31		2.0	2.2	2.0	2.0	2.1
32		2.0	2.2	2.0	2.0	2.1
33		2.0	2.3	2.0	2.0	2.1
34		2.0	2.4	2.0	2.0	2.1
35		2.0	2.5	2.0	2.0	2.1
36		2.0	2.6	2.0	2.0	2.1
37		2.0	2.8	1.9	2.0	2.1
38		1.9	3.0	1.9	2.0	2.1
39		1.9	3.1	1.9	2.0	2.1
40		1.9	3.3	1.9	1.9	2.1
係数		$yt=a+bt$	$yt=a+bt+ct^2$	$yt=a \cdot b^t$	$yt=a \cdot t^b$	$yt=K/(1+e^{-(a-bx)})$
a		2.4026	8.4201	2.42	3.4755	-1.54
b		-0.0121	-0.4591	0.99	-0.157	0.00
c			0.0083			
K						2.5
r		0.36	0.46	0.35	0.36	-0.0

2. 許可業者収集ごみ

(1) ガラス

単位：t/日

年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	一次指数曲線	べき曲線	ロジスティック
25	0.153	0.155	0.155	0.154	0.155	0.153
26	0.148	0.145	0.143	0.143	0.143	0.146
27	0.129	0.135	0.133	0.132	0.133	0.139
28	0.123	0.125	0.123	0.122	0.123	0.133
29	0.115	0.115	0.115	0.113	0.115	0.127
30		0.104	0.107	0.105	0.107	0.122
31		0.094	0.101	0.097	0.100	0.119
32		0.084	0.097	0.090	0.094	0.116
33		0.074	0.093	0.084	0.088	0.114
34		0.064	0.090	0.078	0.083	0.113
35		0.054	0.089	0.072	0.078	0.112
36		0.044	0.089	0.067	0.074	0.111
37		0.034	0.090	0.062	0.070	0.111
38		0.024	0.092	0.057	0.066	0.111
39		0.014	0.095	0.053	0.063	0.110
40		0.003	0.100	0.049	0.059	0.110
係数		$yt=a+bt$	$yt=a+bt+ct^2$	$yt=a \cdot b^t$	$yt=a \cdot t^b$	$yt=c-(c-K)/(1+e^{-(a-bx)})$
a		0.4074	0.83421	1.028	111.31	10.50
b		-0.0101	-0.04184	0.93	-2.043	0.40
c			0.0005871			0.18
K						0.11
r		0.98	0.98	0.98	0.98	0.98

3. 直接搬入ごみ

(1) 可燃ごみ

単位：t/日

年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	一次指数曲線	べき曲線	ロジスティック
25	4.2	3.8	3.9	3.7	3.8	3.8
26	3.1	3.6	3.5	3.5	3.5	3.6
27	2.9	3.3	3.2	3.3	3.3	3.3
28	3.8	3.1	3.0	3.1	3.1	3.1
29	2.8	2.9	3.1	2.9	2.9	2.9
30		2.7	3.2	2.7	2.7	2.8
31		2.5	3.5	2.5	2.6	2.7
32		2.3	4.0	2.4	2.5	2.6
33		2.0	4.6	2.2	2.3	2.5
34		1.8	5.4	2.1	2.2	2.4
35		1.6	6.4	2.0	2.1	2.3
36		1.4	7.4	1.9	2.0	2.3
37		1.2	8.7	1.7	1.9	2.3
38		1.0	10.1	1.6	1.8	2.2
39		0.7	11.6	1.5	1.7	2.2
40		0.5	13.3	1.4	1.7	2.2
係数		$yt=a+bt$	$yt=a+bt+ct^2$	$yt=a \cdot b^t$	$yt=a \cdot t^b$	$yt=c-(c-K)/(1+e^{-(a-bx)})$
a		9.2055	64.975	18.524	1000.6	4.53
b		-0.217	-4.3595	0.94	-1.734	0.22
c			0.0767			9.00
K						2.1
r		0.58	0.63	0.58	0.58	0.57

(2) ガラス

単位：t/日

年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	一次指数曲線	べき曲線	ロジスティック
25	0.016	0.016	0.015	0.015	0.015	0.016
26	0.011	0.015	0.015	0.014	0.014	0.015
27	0.016	0.015	0.014	0.013	0.013	0.014
28	0.107	0.014	0.013	0.012	0.012	0.013
29	0.011	0.013	0.011	0.011	0.012	0.012
30		0.012	0.010	0.011	0.011	0.012
31		0.011	0.008	0.010	0.010	0.011
32		0.010	0.006	0.009	0.010	0.011
33		0.009	0.004	0.009	0.009	0.011
34		0.008	0.001	0.008	0.009	0.010
35		0.007	-0.002	0.007	0.008	0.010
36		0.006	-0.005	0.007	0.008	0.010
37		0.006	-0.008	0.006	0.007	0.010
38		0.005	-0.011	0.006	0.007	0.010
39		0.004	-0.015	0.006	0.007	0.010
40		0.003	-0.019	0.005	0.006	0.010
係数		$yt=a+bt$	$yt=a+bt+ct^2$	$yt=a \cdot b^t$	$yt=a \cdot t^b$	$yt=c-(c-K)/(1+e^{-(a-bx)})$
a		0.0388	-0.052154	0.0862	6.2886	11.00
b		-0.0009	0.0058032	0.93	-1.872	0.42
c			-0.0001245			0.02
K						0.01
r		0.51	0.51	0.51	0.51	0.49

(3) 古紙

単位：t/日

年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	一次指数曲線	べき曲線	ロジスティック
25	0.099	0.100	0.094	0.103	0.103	0.101
26	0.090	0.094	0.098	0.094	0.094	0.095
27	0.088	0.087	0.095	0.086	0.086	0.088
28	0.101	0.080	0.085	0.079	0.079	0.081
29	0.060	0.074	0.067	0.073	0.073	0.075
30		0.067	0.043	0.067	0.067	0.069
31		0.061	0.012	0.061	0.063	0.064
32		0.054	-0.026	0.056	0.058	0.060
33		0.047	-0.072	0.051	0.054	0.057
34		0.041	-0.124	0.047	0.051	0.055
35		0.034	-0.183	0.043	0.047	0.053
36		0.028	-0.250	0.039	0.044	0.052
37		0.021	-0.323	0.036	0.042	0.052
38		0.014	-0.404	0.033	0.039	0.051
39		0.008	-0.491	0.030	0.037	0.051
40		0.001	-0.586	0.028	0.035	0.050
係数		$yt=a+bt$	$yt=a+bt+ct^2$	$yt=a \cdot b^t$	$yt=a \cdot t^b$	$yt=c-(c-K)/(1+e^{-(a-bx)})$
a		0.2652	-2.2957	0.9049	175.44	10.85
b		-0.0066	0.18364	0.92	-2.312	0.40
c			-0.0035225			0.12
K						0.05
r		0.64	0.75	0.66	0.65	0.64

(4) 古布

単位：t/日

年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	一次指数曲線	べき曲線	ロジスティック
25	0.04	0.05	0.04	0.06	0.06	0.04
26	0.05	0.04	0.05	0.04	0.04	0.04
27	0.04	0.03	0.04	0.03	0.03	0.03
28	0.01	0.02	0.03	0.02	0.02	0.03
29	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02
30		0.00	-0.02	0.01	0.01	0.02
31		-0.01	-0.06	0.01	0.01	0.02
32		-0.02	-0.10	0.00	0.00	0.01
33		-0.03	-0.15	0.00	0.00	0.01
34		-0.04	-0.21	0.00	0.00	0.01
35		-0.05	-0.28	0.00	0.00	0.01
36		-0.05	-0.35	0.00	0.00	0.01
37		-0.06	-0.43	0.00	0.00	0.01
38		-0.07	-0.52	0.00	0.00	0.01
39		-0.08	-0.61	0.00	0.00	0.01
40		-0.09	-0.71	0.00	0.00	0.01
係数		$yt=a+bt$	$yt=a+bt+ct^2$	$yt=a \cdot b^t$	$yt=a \cdot t^b$	$yt=c-(c-K)/(1+e^{-(a-bx)})$
a		0.2907	-2.4124	968.48	2E+13	10.50
b		-0.0096	0.19119	0.68	-10.39	0.41
c			-0.0037182			0.07
K						0.01
r		0.80	0.89	0.85	0.85	0.79

(5) 小型家電

単位：t/日

年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	一次指数曲線	べき曲線	ロジスティック
25	0.10	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09
26	0.08	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09
27	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09
28	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09
29	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09
30		0.09	0.10	0.09	0.09	0.08
31		0.09	0.12	0.09	0.09	0.08
32		0.09	0.14	0.09	0.09	0.08
33		0.09	0.16	0.09	0.09	0.08
34		0.09	0.19	0.09	0.09	0.08
35		0.09	0.22	0.09	0.09	0.08
36		0.09	0.26	0.09	0.09	0.08
37		0.09	0.30	0.09	0.09	0.08
38		0.09	0.34	0.09	0.09	0.08
39		0.09	0.39	0.09	0.09	0.08
40		0.09	0.45	0.09	0.09	0.08
係数		$yt=a+bt$	$yt=a+bt+ct^2$	$yt=a \cdot b^t$	$yt=a \cdot t^b$	$yt=c-(c-K)/(1+e^{-(a-bx)})$
a		0.0973	1.6622	0.0964	0.1197	10.00
b		-0.0003	-0.11652	1.00	-0.087	0.37
c			0.0021526			0.10
K						0.08
r		0.10	0.90	0.08	0.10	0.10

4. 資源集団回収

(1) 古紙

単位：t/日

年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	一次指数曲線	べき曲線	ロジスティック
25	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
26	1.9	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
27	1.6	1.7	1.7	1.7	1.6	1.6
28	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
29	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
30		1.1	1.2	1.2	1.2	1.3
31		1.0	1.1	1.1	1.1	1.2
32		0.8	1.0	1.0	1.0	1.2
33		0.6	0.9	0.9	0.9	1.1
34		0.5	0.8	0.8	0.9	1.1
35		0.3	0.7	0.7	0.8	1.1
36		0.1	0.6	0.7	0.7	1.1
37		0.0	0.6	0.6	0.7	1.1
38		-0.2	0.5	0.5	0.6	1.1
39		-0.4	0.5	0.5	0.6	1.1
40		-0.6	0.5	0.4	0.5	1.1
係数		$yt=a+bt$	$yt=a+bt+ct^2$	$yt=a \cdot b^t$	$yt=a \cdot t^b$	$yt=c-(c-K)/(1+e^{-(a-bx)})$
a		6.2587	10.605	26.719	15823	11.82
b		-0.1704	-0.4933	0.90	-2.785	0.47
c			0.006			3.00
K						1.10
r		0.98	0.98	0.99	0.99	0.98

(2) 古布

単位：t/日

年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	一次指数曲線	べき曲線	ロジスティック
25	0.036	0.035	0.037	0.037	0.036	0.037
26	0.032	0.031	0.031	0.031	0.031	0.031
27	0.027	0.027	0.026	0.027	0.026	0.026
28	0.020	0.023	0.023	0.023	0.023	0.023
29	0.021	0.019	0.020	0.020	0.020	0.020
30		0.014	0.018	0.017	0.017	0.018
31		0.010	0.017	0.015	0.015	0.017
32		0.006	0.018	0.012	0.013	0.016
33		0.002	0.019	0.011	0.011	0.016
34		-0.003	0.021	0.009	0.010	0.016
35		-0.007	0.024	0.008	0.009	0.015
36		-0.011	0.029	0.007	0.008	0.015
37		-0.015	0.034	0.006	0.007	0.015
38		-0.019	0.040	0.005	0.006	0.015
39		-0.024	0.047	0.004	0.006	0.015
40		-0.028	0.055	0.004	0.005	0.015
係数		$yt=a+bt$	$yt=a+bt+ct^2$	$yt=a \cdot b^t$	$yt=a \cdot t^b$	$yt=c-(c-K)/(1+e^{-(a-bx)})$
a		0.1403	0.4988	1.7179	24482	10.54
b		-0.0042	-0.030817	0.86	-4.169	0.45
c			0.0004932			0.08
K						0.015
r		0.97	0.98	0.96	0.96	0.97

(3) 金属

単位：t/日

年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	一次指数曲線	べき曲線	ロジスティック
25	0.043	0.041	0.042	0.042	0.042	0.043
26	0.041	0.039	0.040	0.041	0.040	0.041
27	0.036	0.038	0.039	0.039	0.039	0.039
28	0.042	0.037	0.038	0.038	0.038	0.038
29	0.035	0.035	0.037	0.036	0.036	0.037
30		0.034	0.036	0.035	0.035	0.035
31		0.032	0.036	0.034	0.034	0.035
32		0.031	0.036	0.033	0.033	0.034
33		0.030	0.036	0.032	0.032	0.033
34		0.028	0.036	0.031	0.031	0.033
35		0.027	0.037	0.030	0.031	0.032
36		0.025	0.038	0.029	0.030	0.032
37		0.024	0.039	0.028	0.029	0.031
38		0.023	0.040	0.027	0.028	0.031
39		0.021	0.042	0.026	0.028	0.031
40		0.020	0.044	0.025	0.027	0.031
係数		$yt=a+bt$	$yt=a+bt+ct^2$	$yt=a \cdot b^t$	$yt=a \cdot t^b$	$yt=c-(c-K)/(1+e^{-(a-bx)})$
a		0.0757	0.1736	0.1007	0.8817	4.50
b		-0.0014	-0.0086211	0.97	-0.946	0.21
c			0.0001346			0.07
K						0.03
r		0.60	0.60	0.60	0.60	0.65

5. 拠点回収

(1) 古紙

単位：t/日

年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	一次指数曲線	べき曲線	ロジスティック
25	0.52	0.53	0.51	0.53	0.53	0.54
26	0.51	0.53	0.53	0.53	0.53	0.53
27	0.57	0.52	0.54	0.52	0.52	0.52
28	0.52	0.52	0.53	0.52	0.52	0.51
29	0.51	0.52	0.51	0.52	0.52	0.51
30		0.52	0.47	0.52	0.52	0.50
31		0.52	0.42	0.52	0.52	0.50
32		0.51	0.35	0.51	0.52	0.50
33		0.51	0.27	0.51	0.51	0.50
34		0.51	0.17	0.51	0.51	0.49
35		0.51	0.06	0.51	0.51	0.49
36		0.51	-0.06	0.51	0.51	0.49
37		0.50	-0.20	0.50	0.51	0.49
38		0.50	-0.35	0.50	0.51	0.49
39		0.50	-0.52	0.50	0.51	0.49
40		0.50	-0.70	0.50	0.50	0.49
係数		$yt=a+bt$	$yt=a+bt+ct^2$	$yt=a \cdot b^t$	$yt=a \cdot t^b$	$yt=c-(c-K)/(1+e^{-(a-bx)})$
a		0.5811	-4.6249	0.5846	0.7267	10.50
b		-0.0021	0.38461	1.00	-0.099	0.42
c			-0.0071609			0.60
K						0.49
r		0.13	0.55	0.14	0.12	0.07

5. 生活排水処理予測

(1) し尿収集人口

単位：人

年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	一次指数曲線	べき曲線	ロジスティック
25	1,026	1,055	1,015	1,062	1,062	1,055
26	1,020	1,016	1,037	1,018	1,016	1,015
27	999	977	1,018	976	974	976
28	999	938	958	936	935	938
29	840	898	858	898	899	900
30		859	717	861	866	864
31		820	535	825	835	828
32		780	312	791	806	793
33		741	49	759	778	759
34		702	-255	728	753	726
35		662	-599	698	729	695
36		623	-985	669	706	664
37		584	-1,411	642	685	634
38		545	-1,878	615	665	605
39		505	-2,385	590	646	577
40		466	-2,933	566	628	550
係数		$yt=a+bt$	$yt=a+bt+ct^2$	$yt=a \cdot b^t$	$yt=a \cdot t^b$	$yt=K/(1+e^{-(a-bx)})$
a		2037.9	-12762	3034.7	38810	-0.86
b		-39.3	1060	0.96	-1.118	-0.06
c			-20.357			
K						3000
r		0.80	0.94	0.79	0.78	0.80

(2) 下水道人口

単位：人

年度	実績	一次傾向線	二次傾向線	一次指数曲線	べき曲線	ロジスティック
25	13,983	13,811	13,961	13,807	13,810	13,816
26	13,832	13,897	13,824	13,891	13,898	13,902
27	13,668	13,983	13,836	13,976	13,983	13,986
28	14,208	14,069	13,996	14,062	14,065	14,067
29	14,225	14,155	14,305	14,148	14,144	14,145
30		14,241	14,762	14,234	14,222	14,220
31		14,327	15,368	14,322	14,297	14,293
32		14,413	16,123	14,409	14,370	14,362
33		14,499	17,026	14,497	14,441	14,430
34		14,585	18,078	14,586	14,511	14,495
35		14,671	19,278	14,675	14,579	14,557
36		14,757	20,627	14,765	14,645	14,617
37		14,843	22,125	14,855	14,710	14,675
38		14,929	23,771	14,946	14,773	14,731
39		15,015	25,565	15,038	14,835	14,784
40		15,101	27,509	15,130	14,895	14,836
係数		$yt=a+bt$	$yt=a+bt+ct^2$	$yt=a \cdot b^t$	$yt=a \cdot t^b$	$yt=K/(1+e^{-(a-bx)})$
a		11661	65667	11854	8227.7	-0.68
b		86	-3925.4	1.01	0.1609	0.05
c			74.286			
K						16000
r		0.57	0.81	0.56	0.55	0.55



御前崎の風景（灯台と海）

(5) し尿収集量

ア. 原単位の算出

し尿収集量の予測値を求めるに当たり、先ず平成 25 年から平成 29 年までの実績値より平均値 (2.23l/人・日) を求め、その数値に各年のし尿収集人口を乗じることとし尿収集量の予測値を求めた。

年度	し尿収集人口(人)	し尿収集量(kl)	原単位 (l/人・日)
平成 25 年度	1,026	892	2.38
平成 26 年度	1,020	783	2.10
平成 27 年度	999	905	2.48
平成 28 年度	999	748	2.05
平成 29 年度	840	646	2.11
平均値			2.23

イ. し尿収集量の見通し

年度	し尿収集人口(人)	原単位 (l/人・日)	し尿収集量 (kl)
平成 25 年度	1,026	2.38	892
平成 26 年度	1,020	2.10	783
平成 27 年度	999	2.48	905
平成 28 年度	999	2.05	748
平成 29 年度	840	2.11	646
平成 30 年度	859	2.23	698
平成 31 年度	820	2.23	666
平成 32 年度	780	2.23	634
平成 33 年度	741	2.23	602
平成 34 年度	702	2.23	570
平成 35 年度	662	2.23	538
平成 36 年度	623	2.23	506
平成 37 年度	584	2.23	474
平成 38 年度	545	2.23	442
平成 39 年度	505	2.23	410
平成 40 年度	466	2.23	378

(6) 浄化槽汚泥収集量

汚泥実績と厚生労働省水道環境部監修「し尿処理施設構造指針解説」中の原単位（合併処理浄化槽 1.20/人・日、単独処理浄化槽 0.750/人・日）に処理人口を乗じて求めた構造指針原単位による計算値の比率から、過去 5 年間の原単位を求めた。過去 5 年間の原単位の平均値を平成 30 年度以降の原単位として、原単位に将来人口を乗じて各年の汚泥収集予測値を求めた。

年 度	汚泥実績	構造指針原単位による計算値(kℓ)	割合	原単位(ℓ/人・日)		汚泥収集量予測値(kℓ)		
				単独処理浄化槽	合併処理浄化槽	単独	合併	合 計
	①	②	③(①/②)	0.75 × ③	1.20 × ③			
H25	13,786	3,402	4.05	3.04	4.86	7,820	5,967	13,787
H26	13,632	3,386	4.03	3.02	4.84	7,675	5,955	13,630
H27	13,326	3,420	3.90	2.93	4.68	6,938	6,388	13,326
H28	13,237	3,245	4.08	3.06	4.90	6,318	6,918	13,236
H29	13,437	3,314	4.05	3.04	4.86	5,818	7,619	13,437
H30				3.02	4.83	5,470	6,830	12,300
H31						5,161	6,602	11,763
H32						4,852	6,379	11,231
H33						4,544	6,160	10,704
H34						4,235	5,946	10,181
H35						3,926	5,735	9,662
H36						3,618	5,529	9,147
H37						3,309	5,327	8,636
H38						3,000	5,129	8,129
H39						2,692	4,935	7,626
H40						2,383	4,744	7,127

(7) 下水道汚泥収集量

ア. 原単位の算出

下水道汚泥収集量の予測値を求めるに当たり、先ず平成 25 年から平成 29 年までの実績値より平均値 (0.23kg/人・日) を求め、その数値に各年の下水道処理人口を乗じることによって下水道汚泥収集量の予測値を求めた。

年 度	下水道汚泥 処理人口(人)	下水道汚泥 収集量(t)	原単位(kg/人・日)
平成 25 年度	13,983	1,185	0.23
平成 26 年度	13,832	1,202	0.24
平成 27 年度	13,668	1,228	0.25
平成 28 年度	14,208	1,188	0.23
平成 29 年度	14,225	1,040	0.20
平均値			0.23

イ. 下水道汚泥収集量の見通し

年 度	下水道汚泥 処理人口(人)	原単位(kg/人・日)	下水道汚泥収集量(t)
平成 25 年度	13,983	0.23	1,185
平成 26 年度	13,832	0.24	1,202
平成 27 年度	13,668	0.25	1,228
平成 28 年度	14,208	0.23	1,188
平成 29 年度	14,225	0.20	1,040
平成 30 年度	14,220	0.23	1,189
平成 31 年度	14,293	0.23	1,196
平成 32 年度	14,362	0.23	1,201
平成 33 年度	14,430	0.23	1,207
平成 34 年度	14,495	0.23	1,212
平成 35 年度	14,557	0.23	1,218
平成 36 年度	14,617	0.23	1,223
平成 37 年度	14,675	0.23	1,228
平成 38 年度	14,731	0.23	1,232
平成 39 年度	14,784	0.23	1,237
平成 40 年度	14,836	0.23	1,241

背表紙

第2次御前崎市一般廃棄物処理基本計画

平成三十一年三月

御前崎市